

年 報

—平成 21 年度—

2010

大磯町郷土資料館

OISO MUNICIPAL MUSEUM

はじめに

平成 21 年度大磯町郷土資料館年報を刊行いたします。

昨年、開館 20 年を迎えた当館にとって、平成 21 年度は今後の資料館活動を進めていく上での新たな一歩を踏み出す大切な 1 年となりました。

初代内閣総理大臣を務め、大磯に本邸「滄浪閣」を構えた伊藤博文が没してから 100 年の節目を迎えたことから、伊藤博文没後 100 年記念事業を展開いたしました。伊藤家をはじめ、関係者、関係機関、関係する自治体など、多くのご理解とご協力をいただき、記念展示、講演会、史跡ツアー、上映会、ミュージアムトークなど、さまざまな行事を開催し、いずれも好評をいただくことができました。また、大磯町出身の植物研究者である宮代周輔氏や、大磯在住の研師で人間国宝の永山光幹氏など、大磯に関わる人物に焦点をあてた展示を開催いたしました。特に関連行事として開催した研磨実演会では、永山氏の一門の方々が手弁当でご協力いただき、「人づくり」に懸けた永山氏の熱い思いを強く感じました。

ワークショップでは、「草と木の調査」、「古文書裏打ちの会」、「海の教室」を継続的に開催したほか、平成 22 年度の企画展を見据え、地域の方々とともに協働で調査活動を行ないました。また、ホームページによる積極的な情報発信を進めるなど、小さいながらも新たな試みも始めています。

今後とも資料館活動につきまして、ご理解・ご協力を賜われますようよろしくお願い申し上げます。

大磯町郷土資料館

目次

[事業報告]

庶務	2
・組織および職員	2
・運営委員会	2
・予算	2
・維持管理	3
・入館者	3
学芸	4
・伊藤博文没後 100 年記念事業 ...	4
・企画展	6
・学級／講座	10
・刊行物	13
・調査／研究／普及	14
・博物館実習	15
・博物館資料の収集、整備、利用 ...	17

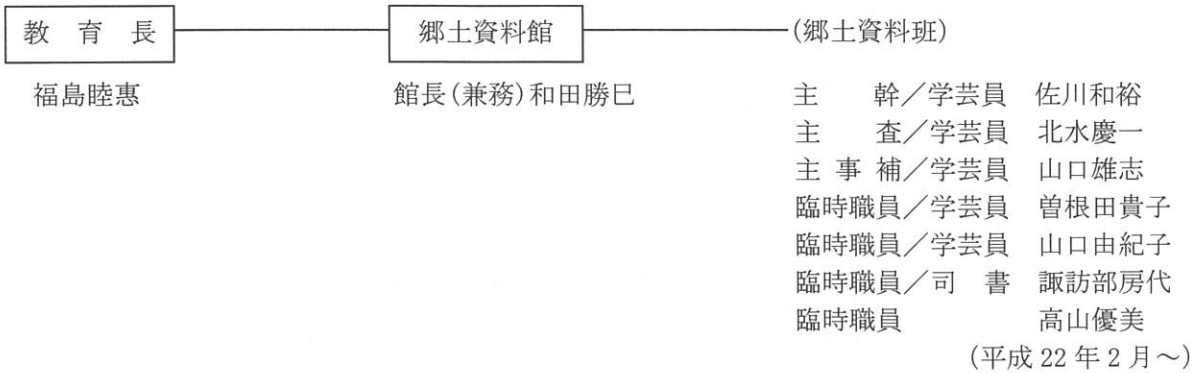
[研究報告]

新聞記事にみる大磯海水浴事情 飯田福信 佐川和裕	28
-----------------------------------	----

事業報告

庶務

■ 組織および職員



■ 運営委員会

<委員の構成>

- ・ 委員長/石田和夫 (有識者)
- ・ 副委員長/廣瀬利郎 (社会教育委員)
- ・ 委員/稲葉和也 (文化財専門委員)
近藤英夫 (町史編さん委員)
熊沢 久 (学校長)

<委員会の開催>

- ・ 第 1 回/平成 21 年 7 月 28 日
 - 議題 1 平成 20 年度事業報告について
 - 議題 2 平成 21 年度事業計画及び予算について
 - 議題 3 リニューアルプランについて
- ・ 第 2 回/平成 22 年 3 月 26 日
 - 議題 1 平成 21 年度事業の進捗状況について
 - 議題 2 平成 22 年度事業計画について
 - 議題 3 研修室の有料化について
 - 議題 4 リニューアルに伴うアンケート調査について

■ 予算

<当初予算の推移>

事業	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
金額	63,293,000	61,188,000	71,083,000	51,922,000	54,050,000	55,723,000

<平成 21 年度決算>

事業	運営委員会	運営事務	維持管理	学芸活動	教育普及・企画展	伊藤博文没後 100 年	計
金額	45,500	3,414,571	11,454,415	949,077	657,559	1,090,837	17,611,959

□職員給与 (3 人分) 20,413,726 円 ■歳出合計 38,025,685 円

■ 維持管理

<委託業務>

- ・清掃委託／(株)郵生
- ・空調機器給水設備保守委託／高砂熱学工業(株) 横浜支店
- ・消防用設備保守委託／(株)三栄防災
- ・昇降機保守委託／ダイコー(株) 横浜営業所
- ・自動ドア保守委託／(株)神奈川ナブコ 厚木支店
- ・自家用電気工作物保守委託／浅葉電気管理事務所
- ・浄化槽維持管理委託／湘南興業(有)
- ・警備委託／(株)全日警 横浜支社
- ・敷地管理委託／(財)神奈川県公園協会
- ・複写機保守管理委託／シャープドキュメントシステム(4、5月のみ)

■ 入館者

<入館者数の推移>

単位：人、日

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	累計(昭和63年～)
入館者数	26,421	28,966	31,697	28,576	34,927	709,785
1日平均/開館日数	89/296	99/291	107/296	98/292	119/294	116/6,144

<月別入館者数>

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	3,281	2,982	1,911	1,807	1,893	2,014	4,233	5,521	2,816	2,592	2,295	3,582	34,927
1日平均	137	115	80	70	76	81	169	221	122	113	100	143	119

<見学・視察>

館対応分のみ、単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	0	0	0	0	0	0	2	1	4	1	1	1	10

<研修室の利用>

単位：団体

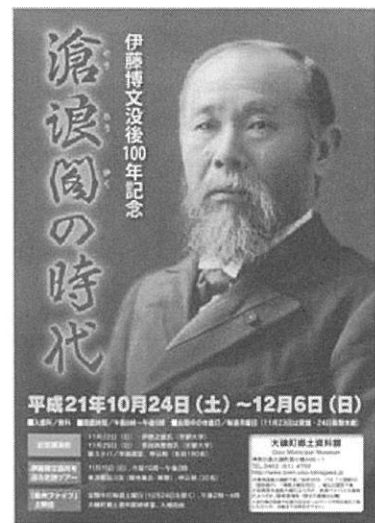
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	14	13	14	11	10	9	8	9	8	7	10	6	119

■伊藤博文没後 100 年記念事業

協 力／神奈川県湘南地域県政総合センター

初代内閣総理大臣を務め、大磯町にもたいへん縁のある伊藤博文が、明治 42 年(1909) 10 月 26 日にハルビン駅頭にて狙撃され亡くなってから、平成 21 年(2009) でちょうど 100 年を迎える。当館では、没後 100 年の節目にあたり、記念展示、記念講演会、史跡ツアー、上映会、ミュージアムトークなどの開催や記念展示図録の刊行など、さまざまな関連行事を展開した。

なお、開催にあたっては、伊藤家のご遺族をはじめ、関係者、関係機関のご理解とご協力をいただいたほか、神奈川県湘南地域県政総合センターより地域課題調整費の支援を受けた。



伊藤博文没後 100 年記念展「滄浪閣の時代」

期 間／平成 21 年 10 月 24 日 (土) ～12 月 6 日 (日)

開場日数／55 日間

場 所／郷土資料館 常設展示室、企画展示室

資料点数／約 200 点

料 金／無料

入館者数／8, 833 人

(趣 旨) 日本の立憲体制の生みの親として、明治憲法の起草にかかわり、初代内閣総理大臣を務めた伊藤博文であるが、これまで日本と韓国における伊藤の評価を含めた歴史認識には大きな隔たりがあった。しかし、近年になって日韓の相互理解を深めるとともに伊藤の再評価を試みようとする動きが見られるようになった。大磯町においても、単に伊藤の業績を顕彰するだけでなく、国際的な視野を持ち、さまざまな意見に耳を傾けながら、あらためて伊藤の成し得た数多くの業績を検証していく必要があると考え、そのための一歩となるべく本展示を企画した。

(内 容) 展示では、①『伊藤博文の生涯』②『滄浪閣の時代』③『顕彰の時代』の 3 つのテーマを設けて構成した。

①の『伊藤博文の生涯』では、さらに小項目として、「長州から世界へ」「近代化への歩み」「立憲国家への実現」「東アジアへのまなざし」「終焉のとき」を設け、出生から幼少・青年時を過ごした現在の山口県光市や萩市における足跡を追い、やがて日本の近代化を志して活躍の場を広げていった伊藤博文の生涯を辿ることができるように構成した。

②の『滄浪閣の時代』では、「小田原から大磯へ」「大磯の滄浪閣」「山の別荘」「統監道」「滄浪閣のその後」の小項目ごとに大磯とのかかわりを掘り下げた。伊藤と大磯とのかかわりは、持病に悩まされていた梅子夫人の静養先として大磯を選んだことに始まり、やがて小田原にあった別邸・滄浪閣を明治 29 年(1896) に大磯へ移した。さらに翌年には本籍も大磯へ移し、明治 42 年に韓国で狙撃されて亡くなるまで、終生大磯町民として生活の基盤を持ち続けた。地元大磯町には、その気さくな人柄を偲ばせる逸話が、遺品とともに数多く遺されており、その全貌を紹介した。



③の『顕彰の時代』では、「遺徳を偲ぶ」「伊藤博文と博文寺」「顕彰から検証へ」という小項目を設け、伊藤没後の伊藤に対する国内外の評価について紹介するとともに、大磯町においてどのように顕彰してきたのかをたどった。また、今後、地元大磯町においても、どのように伊藤を評価し、後世に伝えていくべきかということの問題提起をした。

今回の展示では展示資料が豊富に収集されたため、従来の企画展示室だけでは足りず、常設展示室の一部を利用して展示した。また、展示にあわせて図録を刊行し、関連資料の目的的な役割を果たすこともできた。なお、会期を通して予想を上回る盛況で、1日の平均入館者数は232人を数えた。

(担当) 佐川

記念講演会

①「伊藤博文の生涯—国際化と近代化への挑戦—」

期 日／平成21年11月22日(日)

場 所／聖ステパノ学園講堂「海の見えるホール」

講 師／京都大学教授 伊藤之雄氏

料 金／無料(事前申込制)

参加人数／99人

②「伊藤博文と大磯」

期 日／平成21年11月29日(日)

場 所／聖ステパノ学園講堂「海の見えるホール」

6講 師／京都大学准教授 奈良岡聰智氏

料 金／無料(事前申込制)

参加人数／117人

(内容) 近年における伊藤博文の評価を含めた歴史認識について、日韓相互理解を進める活動の中心的な役割を担っておられる京都大学の伊藤之雄氏と奈良岡聰智氏の2氏を招き、神奈川県湘南地域県政総合センターとの協力事業として開催した。第1回目の講演会では、伊藤博文の生涯と業績、および時代とともに変化してきた国内外の伊藤の評価について講話いただいた。また、第2回目の講演会では、伊藤博文と大磯とのかかわり、政治史における大磯や別荘の位置づけなどを中心に講話いただいた。なお、会場運営にあたっては聖ステパノ学園ならびに生涯学習課、図書館、子ども育成課、子育て支援室の協力を得た。

(担当) 佐川



伊藤博文墓所をめぐる史跡ツアー

期 日／平成21年11月15日(日)

場 所／大森貝塚遺跡庭園～鹿嶋神社～品川区立品川歴史館～滝王子稲荷神社～大井・原の水源地～養玉院(大井の大仏)～伊藤博文墓所

講 師／ガイドしながわ

料 金／500円(保険料・資料代/事前申込制)

参加人数／32人

(内容) 品川区西大井にある伊藤博文の墓所と周辺の史跡めぐりを行なった。墓所は品川区指定史跡として品川区が設定する文化財公開日を除いては公開されていないが、当日はたまたま公開日と重なり、区民の見学者で賑わっていた。同地付近は、かつて伊藤の居宅もあったところで、周辺の環境や文化をあわせて学ぶことを目的として、全体の案内を「ガイドしながわ」の方々をお願いした。また、オリエンテーションのための会場利用については品川区立品川歴史館のご協力をいただいた。

(担当) 佐川、曾根田、山口(由)



「長州ファイブ」上映会

期 日／平成 21 年 10 月 31 日（土）、11 月 7 日（土）・14 日（土）・21 日（土）・28 日（土）、
12 月 5 日（土）

場 所／郷土資料館 研修室

参加人数／233 人

（内 容）伊藤博文の人物像の理解と歴史背景を知るための一助として、伊藤にかかわる映像作品を上映した。上映作品は、『長州ファイブ』（五十嵐匠監督・脚本／映画「長州ファイブ」制作委員会・2006 年）で、会場の制約上、1 回 40 名ほどの座席定員であったが、毎回ほぼ満席の状況であった。

（担 当）佐川



ミュージアムトーク

期 日／会期中随時対応

場 所／郷土資料館 企画展示室、常設展示室

開催回数／44 回

参加人数／289 人

（内 容）来館者とのコミュニケーションをとりながら、展示内容について一層の理解をいただくため、担当学芸員および他の学芸員による展示解説を行った。特に期日を設定せず、団体・個人の別なく希望者すべてに随時対応した。

（担 当）佐川、諏訪部、曾根田、山口（雄）、北水

■ 企画展

学習参考資料展「みんな集まれ！大磯いきものたんけん隊」

期 間／平成 21 年 5 月 2 日（土）～6 月 14 日（日）

開場日数／37 日 間

会 場／郷土資料館 企画展示室

出品点数／約 350 点

料 金／無 料

入場者数／4,011 人

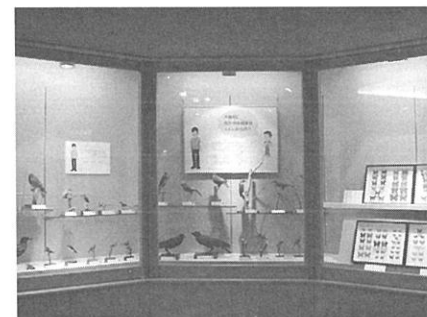
（趣 旨）小学校 3 年生から始まる総合学習の学習内容にあわせて企画展を開催した。

例年、6 月に小学 3 年生の総合学習「町たんけん」、「郷土」で当館にご来館いただくことが多い。事前に用意された質問に対して言葉で伝えるよりも資料をもとに解説した方が、理解が進むと思ひ、企画を進めた。展示では過去に質問を受けた 5 つの疑問をタイトルとして取り上げ、当館所蔵の標本や写真を使って説明した。

（内 容）

「大磯町に鳥や虫は何種類くらいいるの？」「どこに行けば、変わったいきものが見られるの？」「春や夏にどんな草花が見られるの？」「城山公園で一番大きな木はどの木？」「大磯町で一番大きないきものは何？」の 5 つのテーマを選び、展開を図った。

テーマⅠ「大磯町に鳥や虫は何種類くらいいるの？」では、これまでに大磯町で確認されたことのある鳥類の総数および蝶の総数を提示し、当館所蔵の剥製、標本をとおして代表的な種類を紹介した。テーマⅡ「どこに行けば変わったいきものが見られるの？」では、身近な場所でもじっくり観察すれば、これまで見落としていた生物を目にすることでできると前置きし、特に海岸では川から流れついた野山



の生物や近海、深海の生物等も漂着することがあると漂着生物を例で紹介した。テーマⅢ「春や夏にどんな草花が見られるの？」では、県立大磯城山公園の花暦調査の結果をとおして、春・夏に開花する植物の類例を提示し、写真パネルで生態の様子を紹介した。テーマⅣ「城山公園で一番大きな木はどの木？」では、城山公園の樹木調査の結果をもとに園内の樹木で胸高直径の数値が高い上位 10 本を写真パネルとともに紹介した。テーマⅤ「大磯町で一番大きないきものは何？」では、本町でこれまでに確認されたことのある生物のうち、最も大きいと思われる平成 8 年、大磯町国府新宿に漂着したアカボウクジラを紹介するとともに平成 18 年に大磯定置で混獲されたミンククジラの骨格標本を例として展示した。

会期中に小学校 3 年生の調べ学習や遠足が生まれ、当初予定していた成果は得られたと考えている。

〔関連行事〕 「城山公園と郷土資料館たんけんツアー」

期 日／平成 21 年 6 月 14 日（日）

※5 月 24 日（日）も実施予定日であったが、雨天のため中止とした。

場 所／県立大磯城山公園、郷土資料館内

参加人数／17 人

（内容）県立大磯城山公園内の史跡見学、自然観察を行なった後、学習参考資料展の展示解説をした。その後、郷土資料館のバックヤードの見学を実施した。

（担 当）北水



夏季企画展「宮代周輔 植物コレクション展」

期 間／平成 21 年 7 月 26 日（日）～9 月 23 日（月）

開場日数／50 日間

会 場／郷土資料館 企画展示室

資料点数／150 点

料 金／無 料

入場者数／4, 131 人

（趣 旨）宮代周輔氏は大磯町出身の植物研究者である。明治 21 年（1888）に本町に生まれ、大磯尋常高等小学校や横浜市の学校の教師として教壇に立ちながら、植物採集を続けられた。昭和 44 年（1969）に 81 歳の生涯を閉じられたが、生前に収集された標本は 12 万点にのぼり、明治から昭和にかけての県内外の植物相を語る貴重な資料として評価されている。標本は亡くなられた翌々年の昭和 46 年（1971）にご自宅のあった横浜市の教育委員会に寄贈され、現在は横浜市こども植物園に保管されている。没後 40 年を契機として当館において、植物標本の里帰り展を開催した。

（内 容） 展示資料は大半を横浜市こども植物園の管理団体である横浜市環境活動支援センターからご提供いただいた。主な借用資料は腊葉 110 点および宮代氏の肖像写真であった。

開場日数が 50 日と長く、スポットライトの光、熱等の影響が懸念されたため、腊葉については前期、後期で資料を入れ替えた。前期展示は 7 月 26 日から 8 月 23 日までの 24 日間、後期展示は 8 月 25 日から 9 月 23 日までの 26 日間であり、各期間 51 点ずつ選び展示した。

展示は「宮代周輔氏の略歴」「宮代周輔氏 大磯での収集活動」「大磯での採集標本」「大磯以外の地域で採集された学術的に貴重な標本」という 4 つのテーマで展開した。標本にはマツバニンジン、ミシマサイコ、ギンリョウソウなど近年、大磯町では見かけなくなった植物が含まれており、あらためて資料の学術的価値の高さが感じられた。

（担 当）北水



春季企画展『研師 人間国宝 永山光幹』

後 援／公益財団法人 日本刀文化振興協会
期 間／平成 22 年 2 月 23 日（火）～4 月 4 日（日）
開場日数／34 日間
会 場／郷土資料館 常設展示室、企画展示室
出品点数／約 200 点
料 金／無料
入場者数／5,144 人

（趣 旨）大磯町在住の永山光幹氏は、平成 10 年(1998)に、日本刀研磨におけるその卓越した貴重な技術に対し、国の重要無形文化財保持者(人間国宝)として認定された。明治期以降、本来の武器としての日本刀から、美術工芸品としての日本刀へと関心が次第に高まった。その一方で、生活様式が大きく変容する社会のなかで、将来にわたる刀剣研磨技術と日本刀の知識の継承を憂慮した永山氏は、従来の徒弟制度とは異なる研磨養成の場として平塚市に永山美術刀剣研磨研修所を開設し、数多くの子弟を世に送り出した。また、伝統を尊重しつつも、できるだけ無駄を省き、科学的で合理的な技術の習得と継承を目指し、研ぎの機械化やさまざまな道具の開発にも力を入れるなど、情熱を持ち続けた開拓者でもあった。現代における最高の日本刀研磨技術保持者の一人であり、広く刀剣界の発展に貢献されている永山氏の技と心を紹介することを目的とした。

（内 容）常設展示室の一部を第一会場、企画展示室を第二会場として展示を行なった。展示構成は「師・本阿彌光遜」「修業時代」「新たな時代へ」「技を伝える」「生涯研師として」の 5 テーマを設けて永山氏の業績や生涯を紹介するとともに、さらに「刀剣研磨の工程」「刀剣押形」のテーマを設けて研師としての永山氏の技術や精神を探ることのできる内容とした。展示資料については、永山氏本人より文化財保持者認定書や免許皆伝書をはじめ、本来はいわば秘伝であった刀剣押形などの貴重な資料の数々をご提供いただいたほか、永山氏が手がけた名刀も 12 振展示することができた。また、企画展示室中央の展示昇降台にはトブネ(可動式の作業台)を配し細工場を復元した。期間中、実際にトブネを使って研磨の実演を行なった。なお、本事業は「旧吉田茂邸再建基金募金協力事業」として開催し、展示および実演会開催にあたっては、公益財団法人日本刀文化振興協会の後援をいただいた。

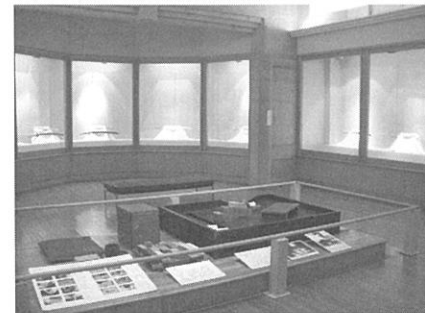
【期間中の 3 月 22 日、永山氏は 90 歳でご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。なお、ご遺族や関係者のご理解とご協力により、その後の展示ならびに関連事業につきましても、予定通り最後まで開催することができました。厚く御礼申し上げます。】

（担 当）佐川

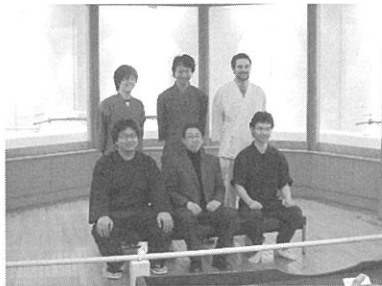
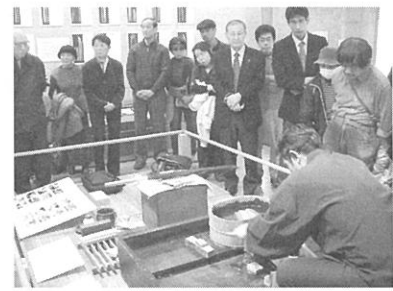
〔関連行事〕 「日本刀研磨実演会」

日 時／期間中の日曜日および祝日
午前 11 時～12 時・午後 2 時～3 時（但し、3 月 28 日のみ午前 10 時～午後 4 時 30 分）
場 所／郷土資料館 企画展示室

（内 容）永山光幹氏一門の研師の方々により日本刀の研磨実演を行なった。企画展示室中央の展示昇降台に設置したトブネ（可動式の作業台）を使い、日本刀や研磨についての解説をしていただきながら、実際の研磨作業の実演をしていただいた。なお、展示期間中の前半は、たいへん天候が不順であり、実演会当日も雨天が多かったにもかかわらず、実演場所である展示昇降台のまわりには人垣ができてしまうほどで、毎回たいへんな盛況であった。



	日 時	実 演 者	見学者数 (午前/午後)
1	2月28日(日)	萩 光明氏 (静岡県島田市)	115人 (70/45)
2	3月7日(日)	小此木 光岳氏 (群馬県太田市)	80人 (42/38)
3	3月14日(日)	是澤 光昌氏 (神奈川県相模原市)	130人 (68/62)
4	3月21日(日)	佐藤 光信氏 (神奈川県川崎市)	90人 (48/42)
5	3月22日(月・祝)	高倉 光瑞氏 (静岡県静岡市)	131人 (63/68)
6	3月28日(日) *10:00~16:30	小川 和比古氏 (東京都三鷹市) 水田 吉政氏 (埼玉県三郷市) 相良 雄一氏 (埼玉県三郷市) 秋田 勇喜氏 (埼玉県三郷市) アンドリュウ氏 (オーストラリア・埼玉県三郷市)	280人
7	4月4日(日)	渡部 光恒氏 (神奈川県横須賀市) 小野 敬博氏 (神奈川県藤沢市) 小川 和比古氏 (東京都三鷹市)	109人 (69/40)
計	7日間	延 13人	935人



(担 当) 佐川

ミニ展示「2009 アカウミガメ産卵・孵化の記録」

期 間/平成21年10月4日(日)~12月27日(日)

開場日数/71日間

場 所/郷土資料館 エントランスホール

(趣 旨) 平成21年夏、本町の海岸において5年ぶりにアカウミガメの産卵が確認された。本件を含め過去10年間に3度、アカウミガメの産卵・孵化が確認されており、前回、前々回と同様に一連の経過を当館で追った。

このたびの孵化確認調査の結果を広く紹介するため、エントランスホールにてミニ展示を開催した。

(内 容) 産卵から孵化までの記録を写真や剥製、卵殻など今回の調査で得られた資料とともに紹介した。本展にあわせて、大磯町役場エントランスホールで9月15日から10月22日まで予告展示を実施した。

(担 当) 北水



■ 学級・講座

<草と木の調査>

期 日／平成21年5月23日（土）、6月13日（土）・
27日（土）、7月11日（土）、8月8日（土）・
22日（土）、9月26日（土）、10月1日（木）・
2日（金）・10日（土）、11月28日（土）、
12月12日（土）、平成22年1月23日（土）、
3月13日（土）

場 所／星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）他
参加人数／延 201 人

（内 容）本ワークショップは、植物の調査を通して植物に関する知識を深めるとともに身近な自然に親しむことを目的に平成11年度に活動を開始した。これまでに第1次調査 秋の植物分布調査〔平成11年度・12年度〕、第2次調査 県立大磯城山公園の植物調査〔平成13～17年度〕を実施し、平成18年度からは第3次調査 星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）の植物調査を行なっている。第3次調査4年目となる本年度は星槎湘南大磯キャンパスの花暦調査の追跡調査を実施するとともに本ワークショップの参加者の方々と一緒に、「星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）の植物展〔同キャンパスにおいて10月4日から10月20日まで実施〕」の準備、開設を行なった。また、前年度から実施している海浜植物の調査を規模を拡大して実施するとともに第4次調査の候補地 大磯運動公園の花暦調査も実施した。

3月13日には東海大学教養学部准教授の藤吉正明先生を講師としてお招きし、特別公開講座「湘南の海浜植物」を開催した。

（各回の活動内容）

月 日	内 容	月 日	内 容
5月23日	ガイドンス ／城山公園の樹名板設置状況調査	10月1日	「星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）の植物」展示準備
6月13日	海岸の植物観察	10月2日	「星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）の植物」展示準備
6月27日	海岸の植物観察	10月10日	星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）の花暦調査
7月11日	星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）の花暦調査	11月28日	星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）の花暦調査
8月8日	大磯運動公園の花暦調査	12月12日	星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）の花暦調査
8月22日	星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）の花暦調査	1月23日	押し葉図鑑の作成
9月26日	「星槎湘南大磯キャンパス（万台こゆるぎの森）の植物」展示の打ち合わせ	3月13日	特別公開講座「湘南の海浜植物」

（担 当）北水

<古文書裏打ちの会>

①通常講座

期 日／平成21年4月18日（土）、5月16日（土）、6月20日（土）、7月18日（土）、8月15日（土）、9月5日（土）、11月3日（火・祝）、12月20日（土）、平成21年1月17日（土）、2月21日（土）、3月21日（土）

場 所／当館研修室

講 師／鵜飼レイ子氏、中村ふぢ氏、吉原悦子氏

参加人数／延 120 人



(内 容) 裏打ちの技術を学びながら、当館で所蔵している古文書の裏打ちを行なうワークショップ。博物館資料の整理というボランティア的な性格をもつ活動として位置づけ、平成16年度から継続している。本年度も昨年度に引き続き、障子や襖に下張りされていた古文書の資料化を進めた。なお、9月および11月については、通常講座として作業を進める一方で、博物館実習生および一般公開講座として開催した。

②博物館実習体験講座

期 日／平成21年9月5日(土)

場 所／当館研修室

講 師／古文書裏打ちの会会員

参加人数／5人

(内 容) 博物館学芸員資格を取得するために当館において実習中の博物館実習生を対象に、実習カリキュラムの一環として開催した。古文書裏打ちの会会員による指導で、のり作りから裏打ちまでの全工程の体験学習を行なった。



③おおいそ文化祭・古文書裏打ち体験

期 日／平成21年11月3日(火・祝)

場 所／当館研修室

講 師／古文書裏打ちの会会員

参加人数／10人

(内 容) おおいそ文化祭の参加行事の一つとして、一般を対象に古文書裏打ち体験会を開催した。古文書の裏打ちは、資料や作業の性格上、参加人数を制約せざるをえず、これまで会員に退会者が多かった場合に限って新たな会員を公募していた。しかし、応募されてきた方々が裏打ち作業に持つイメージと、実際の作業がかけ離れている場合が多く、新たに会員となっても長続きしないという状況も生まれている。そこで、実際に作業内容を公開し、興味のある方々に体験していただき、作業の実情を知っていただいた上で、参加意向のある方を募集することとした。今回は、体験者1名が新たに会員として加入した。

(担 当) 佐川、曾根田

<海の教室>

①海藻おしば標本づくり

期 日／平成21年5月30日(土)

場 所／当館研修室

参加人数／8人

②照ヶ崎周辺の海藻観察

期 日／平成21年6月21日(日)

場 所／照ヶ崎海岸

講 師／野田三千代氏(海藻おしば協会会長)

参加人数／10人

③磯の生き物の観察と講話

期 日／平成21年7月5日(日)

場 所／照ヶ崎海岸

講 師／福田良昭氏(相模貝類研究
談話会会長)

参加人数／12人

④ビーチコーミング

期 日／平成22年2月14日(日)

場 所／照ヶ崎海岸～北浜海岸

参加人数／13人



(内 容) 特定の学問分野に拘らず「海」をテーマに様々なことを体験し、楽しみながら海岸環境や海産生物についての知識を深めることを目的に平成 12 年度から実施している。本年度は前年度から継続している大磯町の海藻の目録化を目指した活動を 2 回、海の教室を開始した時から比較的良好に実施している磯の生き物の観察と講話を 1 回、ビーチコーミングを 1 回実施した。大磯町の海藻の目録化については 20 種の標本が完成した。

(担 当) 北水

〈みんなで町の自然を調べよう 桜・タンポポ・春の花〉

期 日／平成 22 年 2 月 13 日 (土)・27 日 (土)、
3 月 27 日 (土)

場 所／郷土資料館 研修室、大磯町内各所

参加人数／60 人

(内 容) 大磯町全域を対象とした住民参加型の植物調査。本年度の調査では桜、タンポポ、春の七草(スズナ、スズシロを除く)の分布状況を調べることにした。大磯町の地図を 16 分割し、それぞれの担当区域を決めた後、担当区域を数回巡回し、記録を取った。



(各回の活動内容)

月 日	内 容	場 所
2 月 13 日	ガイダンス／勉強会 (ハハコグサ属、ハコベ属、タンポポ属、サクラ亜科の学習)	郷土資料館 研修室
2 月 27 日	勉強会 (セリ属、ナズナ属、ヤブタバコ属、サクラ亜科の学習)	郷土資料館 研修室
3 月 27 日	合同調査	大磯町西小磯

(担 当) 北水

〈ホームページの充実〉

(内 容) 郷土資料館 Web サイト内[大磯町郷土資料館ノート]に館活動情報等を掲載し、発信した。

〈月別アクセス件数〉

単位：件

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
件 数	3,048	2,588	3,376	4,243	4,742	4,736	
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
件 数	4,224	4,083	4,025	3,027	3,324	5,494	46,910



(担 当) 山口、曾根田

＜スタンプラリー＞

期 日／平成 22 年 3 月 13 日～22 日（月・祝）

場 所／大磯城山公園、大磯町郷土資料館、大磯運動公園

（内 容）平成 21 年 6 月、大磯城山公園・大磯町郷土資料館・大磯運動公園の近隣 3 施設が、相互に連携して情報や意見の交換を行ない、有効的な利用者へのサービス提供を目指して大磯公園施設等連絡会を立ち上げた。その一環として、各施設の一層の利用促進を図るため、スタンプラリーを実施した。期間中に各施設をめぐり、スタンプを 3 つ集めると景品と交換できるというもので、景品は各施設によって内容の違うものを 50 個用意し、景品が無くなり次第終了とした。景品は城山公園が竹炭、郷土資料館は史跡ガイドと絵はがきのセット、運動公園では花苗（フラワーポット）であった。スタンプラリーの開始期間は運動公園まつりの開催日にあわせて 3 月 13 日から始め、以後 10 日間とした。また、大磯町郷土資料館で開催中の春季企画展「研師 人間国宝 永山光幹」を同時イベントとして位置づけた。スタンプ台紙配布数と、景品交換数は下表のとおりであった。

	大磯城山公園	大磯町郷土資料館	大磯運動公園	合 計
発行台紙数	25	50	36	111
交換景品数	21	8	50	79
合 計	46	58	86	190

（担 当）佐川、北水、山口(雄)、諏訪部

■ 刊行物

＜図録・冊子＞

- ・伊藤博文没後 100 年記念展『滄浪閣の時代』図録 A4 版 40 頁 800 部（平成 21 年 10 月刊）
- ・春季企画展『研師 人間国宝 永山光幹』図録 A4 版 34 頁 700 部（平成 22 年 2 月刊）
- ・『Report－大磯町郷土資料館だより』30 A4 版 8 頁 800 部（平成 22 年 3 月刊）
- ・『年報－平成 20 年度－』 A4 版 42 頁 400 部（平成 22 年 3 月刊）

＜チラシ・パンフレット＞

- ・学習参考資料展『みんな集まれ！ 大磯いきものたんけん隊』チラシ A4 版 2 頁 コピー対応（平成 21 年 4 月刊）
- ・企画展『宮代周輔 植物コレクション展』チラシ A4 版 2 頁 コピー対応（平成 21 年 7 月刊）
- ・ミニ展示『2009 アカウミガメ産卵・孵化の記録』チラシ A4 版 1 頁 コピー対応（平成 21 年 9 月刊）
- ・常設展リーフレット『旧吉田茂邸 －終の住処を思う－』 A4 版 4 頁 2,000 部（平成 21 年 9 月刊）
- ・伊藤博文没後 100 年記念展『滄浪閣の時代』チラシ A4 版 2 頁 4,000 部（平成 21 年 10 月刊）
- ・庭園文化圏再生構想事業「庭園文化交流園・大磯」関連資料 A4 版 4 頁 コピー対応（平成 21 年 10 月刊）
- ・J R 東日本主催「小さな旅－相模湾を一望!! 二宮・大磯ウォーキング－」関連資料 A4 版 2 頁 3,000 部（平成 21 年 10 月刊）
- ・旧吉田茂邸再建基金広報リーフレット A4 版 2 頁 3,000 部（平成 21 年 1 月刊）
- ・春季企画展『研師 人間国宝 永山光幹』チラシ A4 版 2 頁 4,000 部（平成 22 年 2 月刊）
- ・春季企画展『研師 人間国宝 永山光幹 日本刀研磨の技 実演』チラシ A3 版 1 頁 コピー対応（平成 22 年 2 月刊）
- ・『進め！ 大磯探検隊』第 3 号 B3 版 2 頁 800 部（平成 22 年 3 月刊）

＜ポスター＞

- ・伊藤博文没後 100 年記念展『滄浪閣の時代』ポスター B2 版 1 頁 100 部（平成 21 年 10 月刊）
- ・春季企画展『研師 人間国宝 永山光幹 日本刀研磨の技 実演』ポスター A3 版 1 頁 コピー対応（平成 22 年 2 月刊）

＜その他＞

- ・講座通信『草と木の調査だより』 A4 版 2 頁 コピー対応（平成 21 年 4～9 月刊）
- ・講座通信『木荔枝－ワークショップ “草と木の調査” 通信－』 A4 版 2～4 頁 コピー対応（平成 22 年 1～3 月刊）

■ 調査・研究・普及

<館内外の活動>

- ・博物館資料調査／年間／大磯町内外（佐川、北水、山口(雄)、諏訪部、曾根田、山口(由)、)
- ・神奈川県博物館協会役員会出席／年間／神奈川県立歴史博物館（和田）
- ・大磯町教育研究所特別研究部会「大磯の自然に関する調査・研究部会」講義／4月27日、5月12日、6月11日、7月3日、9月4日、10月8日、11月4日、12月4日、1月26日、2月8日、3月3日／教育研究所ほか（北水）
- ・大磯町教育研究所「大磯の自然に関する調査・研究部会」野外観察会指導／5月9日、5月25日、6月7日、8月6日／大磯町内（北水）
- ・大磯町新採用職員研修会講義／5月14日／大磯町役場（佐川）
- ・大磯町立大磯小学校3年生総合学習講義／5月15日／大磯小学校（佐川）
- ・相模民俗学会総会、運営委員会、研究会出席／5月17日、11月15日、1月17日／横浜市歴史博物館ほか（佐川）
- ・大磯町立学校新採用教職員研修会講義／5月26日／郷土資料館（北水）
- ・神奈川県主催夏休み親子下水道事業事前調査立会い／5月29日／長谷川、葛川（北水）
- ・いそっこ海の教室記念イベント「大磯地曳網 親子体験教室」事前勉強会講義／5月31日／郷土資料館（佐川）
- ・大磯町立大磯小学校3年生総合学習講義／6月5日／大磯小学校（佐川）
- ・大磯町立大磯幼稚園「照ヶ崎海岸磯遊び」指導／6月9日／照ヶ崎（北水）
- ・平塚市博物館主催「民俗探訪会」講義／6月17日／郷土資料館（佐川）
- ・桜美林大学博物館実習講義／6月29日ほか／桜美林大学（佐川）
- ・大磯ガイドボランティア協会主催講演会「大磯と海水浴場」講義／7月7日／町立図書館（曾根田・山口(由)）
- ・いそっこ海の教室記念イベント「大磯地曳網 親子体験教室」指導／7月20日／西小磯海岸（佐川）
- ・神奈川県主催「夏休み下水道教室」講座運営立会い／8月18日／葛川（北水）
- ・大磯町教育研究所研修講座「総合学習に生かせる大磯の自然散策」指導／8月19日／照ヶ崎（北水）
- ・平成21年度教員免許更新講習講義／8月21日／日本女子大学（佐川）
- ・相模民俗学会研究発表／9月20日／神奈川県立歴史博物館（佐川）
- ・大磯町立大磯小学校2年生生活科講義／9月25日／大磯小学校（佐川）
- ・平塚市教育委員会主催「平塚市文化財ふれあいツアー」講義／10月31日／郷土資料館（北水）
- ・(独)国立文化財機構東京文化財研究所「第4回無形民俗文化財研究協議会」事例報告／11月19日／東京文化財研究所（佐川）
- ・大磯町立大磯中学校1年生総合学習講義／12月3日／大磯中学校（佐川）
- ・東海大学博物館実習Ⅰ講義／2月15日／東海大学（佐川）
- ・湘南地区行政相談員自主研修会講義／2月18日／郷土資料館（曾根田）
- ・城山公園事務所主催研修会講義／3月2日／城山公園事務所（佐川）
- ・山北町教育委員会主催「平成21年度山北町文化財講座」講義／3月27日／山北町立中央公民館（佐川）

<施設・展示解説>

- ・東海道ウォークガイドの会／11月21日／25人（諏訪部）
- ・藤沢税務署管内納税貯蓄組合／12月5日／30人（北水）
- ・大磯町加藤氏ほか／12月12日／5人（北水）
- ・大泉町議会／1月20日／10人（北水）

<執筆>

佐川和裕

- 2009. 10. 伊藤博文没後 100 年記念展『滄浪閣の時代』図録（共著） 大磯町郷土資料館
- 2010. 2. 春季企画展『研師 人間国宝 永山光幹』図録 大磯町郷土資料館
- 2010. 3. 「伊藤博文没後 100 年記念事業をふりかえって」『Report—大磯町郷土資料館だより』29 大磯町郷土資料館

北水慶一

- 2010. 3. 「2009 アカウミガメ産卵・孵化の記録」『Report—大磯町郷土資料館だより』30 大磯町郷土資料館
- 2010. 3. 「約 20 年ぶりに本町で確認されたアナグマ」『Report—大磯町郷土資料館だより』30 大磯町郷土資料館
- 2010. 3. 「ワークショップ“草と木の調査”活動報告 万台こゆるぎの森の植物」『年報—平成 20 年度—』 大磯町郷土資料館

曾根田貴子

- 2009. 10. 伊藤博文没後 100 年記念展『滄浪閣の時代』図録（共著） 大磯町郷土資料館
- 2009. 10. 庭園文化圏再生構想事業「庭園文化交流園・大磯」関連資料 大磯町郷土資料館
- 2009. 10. JR 東日本主催「小さな旅—相模湾を一望!! 二宮・大磯ウォーキング—」関連資料 大磯町郷土資料館
- 2009. 10. 「大磯の賢人 吉田茂 吉田御殿」『広報おおいそ 10 月』 大磯町政策課
- 2009. 11. 「大磯の賢人 吉田茂 惜別のとき」『広報おおいそ 11 月』 大磯町政策課
- 2009. 12. 「大磯の賢人 吉田茂 「吉田茂」のルーツ」『広報おおいそ 12 月』 大磯町政策課
- 2010. 1. 旧吉田茂邸再建基金広報リーフレット 大磯町郷土資料館
- 2010. 1. 「大磯の賢人 吉田茂 外務省の異端児」『広報おおいそ 1 月』 大磯町政策課
- 2010. 2. 「大磯の賢人 吉田茂 結婚」『広報おおいそ 2 月』 大磯町政策課
- 2010. 3. 「大磯の賢人 吉田茂 パリ講和会議」『広報おおいそ 3 月』 大磯町政策課
- 2010. 3. 『進め！ 大磯探検隊 第 3 号』 大磯町郷土資料館

山口由紀子

- 2009. 10. 伊藤博文没後 100 年記念展『滄浪閣の時代』図録（英訳） 大磯町郷土資料館
- 2009. 10. 庭園文化圏再生構想事業「庭園文化交流園・大磯」関連資料 大磯町郷土資料館
- 2009. 10. JR 東日本主催「小さな旅—相模湾を一望!! 二宮・大磯ウォーキング—」関連資料 大磯町郷土資料館
- 2010. 1. 旧吉田茂邸再建基金広報リーフレット 大磯町郷土資料館
- 2010. 2. 春季企画展『研師 人間国宝 永山光幹』図録（英訳） 大磯町郷土資料館

■ 博物館実習

平成 21 年度は 5 大学より 5 名の学生を受け入れた。実習期間は 9 月 1 日から 9 月 12 日の間（9 月 6 日・7 日を除く）及び 7 月 31 日（事前ガイダンス）、9 月 18 日（課題等提出）の計 12 日間とした。

博物館実習は例年、1 週目と 2 週目とでは作業内容を変えて実施している。実習 1 週目は民俗、自然各分野の作業や梱包、軸物等資料の取り扱いなど実務的な作業を行ない、2 週目は常設展示室の展示替実習を行なった。展示替実習は実習生が主体となって、企画立案から展示に至るまでの作業を進めるもので、本年度は「旧吉田茂邸～終の住処を思う～」のタイトルで進めた。

平成 21 年 3 月 22 日、戦後の日本復興に大きな功績を残された故吉田茂元首相の本宅が焼失した。吉田五十八氏の設計で歴史的、文化財的価値が高いため、町は再建を目指して旧吉田茂邸再建基金事業を進めている。展示は再建基金事業にタイアップする形で、吉田茂氏の業績を中心にゆかりの品々をあわせて展示した。展示資料のうち、旧吉田茂邸全景模型は力作で、来館者の目を引いている。

<実習生>

本間 つかさ (清泉女子大学)、小山 夏海 (法政大学)、西方 優美 (関東学院大学)、
稲川 友美 (駒澤大学)、山形 侑大 (東海大学)

<課程>

月 日	曜日	午 前	午 後
7月31日	金		ガイダンス／館内見学
9月1日	火	講義 (資料館の活動概要)	町内施設・史蹟見学 ／展示替実習 (展示構想打ち合わせ)
9月2日	水	自然野外調査	自然資料整理／資料借用
9月3日	木	古文書裏打ちの会 事前準備	古文書裏打ちの会 事前準備
9月4日	金	展示替実習 (展示構想・資料調査・展示資料選択)	
9月5日	土	古文書裏打ちの会参加	古文書裏打ちの会参加 ／展示替実習打ち合わせ
9月6日	日	休	講
9月7日	月	休	講
9月8日	火	展示替実習 (資料調査・原稿作成)	
9月9日	水	展示替実習 (原稿作成・展示物作製・パネル作製)	
9月10日	木	展示替実習 (原稿作成・展示物作製・キャプション作製・リーフレット編集・列品)	
9月11日	金	資料梱包	資料梱包／軸物の取り扱い 展示替実習 (展示物作製)
9月12日	土	展示替実習 (原稿作成・展示物作製・キャプション作製・パネル作製・列品 リーフレット編集・片付け・記録・総括)	
9月18日	金		旧吉田茂邸の見学／澤田美喜記念館の見学



(担当) 北水、佐川、山口 (雄)、曾根田、山口 (由)

■ 博物館資料の収集、整備、利用

<寄贈資料>

(敬称略)

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先	No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2009-0401	H21. 4. 1	ゲタ、ハシバコ	3	木村純子 大磯町大磯	0703	H21. 7. 23	耐火煉瓦、赤煉瓦	7	倉田静江 東京都葛飾区
0402	H21. 4. 3	衣類 他	一括	加藤廣重 大磯町国府新宿	0901	H21. 9. 30	テンピンバカリ 他	20	高橋静男 大磯町西小磯
0403	H21. 4. 17	原安民(昔人)資料	一括	森龍朗 東京都中野区	1001	H21. 10. 30	原安民(昔人)資料	一括	森龍朗 東京都中野区
0501	H21. 5. 12	衣類	一括	関野菊枝 大磯町大磯	1101	H21. 11. 13	巾着網設計図 他	9	西山敏夫 二宮町山西
0502	H21. 5. 13	トックリ	1	西山敏夫 二宮町山西	2010-0101	H22. 1. 22	昆虫標本	1	木村純子 大磯町大磯
0503	H21. 5. 13	扁額	1	丸若和榮 平塚市田村	0102	H22. 1. 16	オビドメ	2	新見由美子 大磯町東小磯
0504	H21. 5. 16	カイセキ膳 他	3	新見由美子 大磯町東小磯	0103	H22. 1. 26	ブリカギ、イカラ	2	西山敏夫 二宮町山西
0505	H21. 5. 16	衣類	一括	曾根田純一郎 大磯町高麗	0202	H22. 2. 13	イットマス 他	8	柳川正夫 平塚市金目
0701	H21. 7. 16	車井戸のクルマ	20	原田朝和 大磯町国府本郷	0203	H22. 2. 26	書籍『お裁縫乃菜』	23	鈴木幸雄 大磯町国府新宿
0702	H21. 7. 17	フクサ	1	土屋フサ 大磯町西小磯					

<寄託資料>

(敬称略、寄託期間：H20. 4. 1～H22. 3. 31)

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先	No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2008-0401	H20. 4. 1	菊池重三郎関係資料	一括	菊池なつみ 大磯町大磯	0414	H20. 4. 1	木造仁王像	2	慶覚院 大磯町高麗
0402	H20. 4. 1	古文書	一括	後藤勲 大磯町月京	0417	H20. 4. 4	随神 他	5	南本町区
0403	H20. 4. 1	書籍	2	山川正 大磯町国府新宿	0419	H20. 4. 11	古文書	一括	近藤敬一郎 東京都新宿区
0404	H20. 4. 1	稲荷講資料	一括	中村晴夫 大磯町西小磯	0423	H20. 4. 15	クロッカスカーテン看板	1	添田光雄 大磯町国府本郷
0405	H20. 4. 1	四季工作図 他	9	守屋町子 大磯町黒岩	0424	H20. 4. 15	書幅	一括	二宮勝男 平塚市下吉沢
0406	H20. 4. 1	獅子頭	2	山本勝美 大磯町大磯	0505	H20. 5. 23	古文書	一括	小見滋夫 大磯町西小磯
0407	H20. 4. 1	雛人形	一括	田川順三 横浜市緑区	0506	H20. 5. 23	稲荷講資料	一括	戸塚浩 大磯町西小磯
0408	H20. 4. 1	一本松稲荷講中資料	一括	宮代治吉 大磯町大磯	0507	H20. 5. 23	木造神像 他	12	高来神社 大磯町高麗
0409	H20. 4. 1	山高帽 他	6	高橋道昌 大磯町西小磯	2009-0404	H21. 4. 17	扁額、壺	2	国府中学校 大磯町月京
0410	H20. 4. 1	高札	3	坂井保治 大磯町黒岩	0801	H21. 8. 7	伊藤博文肖像画 他	3	清水雄一郎 大磯町西小磯
0411	H20. 4. 1	吉田茂杯 他	5	大磯中学校 大磯町東小磯	1201	H21. 12. 24	伊藤博文書幅	1	大木伸男 秦野市堀山下
0412	H20. 4. 1	子供会旗	2	二宮幸男 大磯町西小磯	2010-0201	H22. 2. 1	屏風(六曲半双)	1	大久保忠旦 千葉市花見川区
0413	H20. 4. 1	掛軸 他	一括	仲川憲久 大磯町西小磯					

<移管資料>

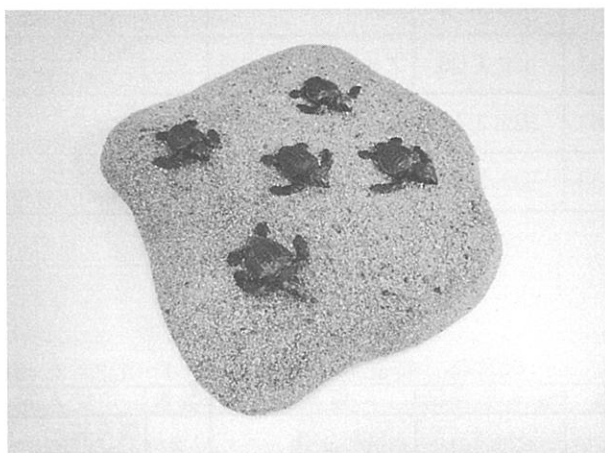
No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2010-0104	H22. 1. 26	カイセキゼン	5	美化センター

<購入資料>

No.	受入年月日	資料名	数量	受入先	No.	受入年月日	資料名	数量	受入先
2009-0405	H21. 4. 15	復刻本(伊藤博文関連)	2	マツノ書店 山口県周南市	2009-1202	H21. 12. 8	洋書『Art of the Samurai』	1	丸善(株) 東京都千代田区
2009-0704	H21. 7. 23	「長州ファイブ」DVD	1	制作委員会 山口県下関市					

<資料整備委託>

木造神像保存処理委託 / (有)光圓美術研究所
動物剥製製作委託 (アカウミガメ5体) / (有)尼ヶ崎科学標本社



アカウミガメの剥製

<資料の特別利用 (No. 1) >

(敬称略)

資料名	点数	利用目的	年月日	申請者	資料名	点数	利用目的	年月日	申請者
館内展示	—	撮影 /個人的趣味	H21. 4. 5	個人	松本順写真	1	撮影 /展示	H21. 8. 1	新城市長篠城址 史跡保存館
絵はがき	1	データ利用 /刊行物掲載	H21. 4. 21	I B C(株)	館内展示	1	撮影 /個人的趣味	H21. 8. 19	個人
石鏝	4	実見 /個人的趣味	H21. 4. 23	個人	絵はがき	2	データ利用 /ワンセグ放映	H21. 8. 21	(株)メディア 総合研究所
館内展示	—	撮影 /個人的趣味	H21. 5. 15	個人	外観、館内展示、 実習風景	—	撮影 /研究発表	H21. 9. 1	博物館実習生
絵はがき	10	撮影 /テレビ放映	H21. 5. 26	(株)メディア 総合研究所	外観、館内展示、 実習風景	—	撮影 /研究発表	H21. 9. 1	博物館実習生
仁王像	1	撮影 /町広報掲載	H21. 6. 10	広報 カメラマン	外観、館内展示、 実習風景	—	撮影 /研究発表	H21. 9. 1	博物館実習生
古書表紙	1	ホームページ転載 /刊行物掲載	H21. 6. 24	国立公文書館 アジア歴史資料センター	外観、館内展示、 実習風景	—	撮影 /研究発表	H21. 9. 1	博物館実習生
絵はがき	1	ホームページ転載 /刊行物掲載	H21. 6. 25	スポーツニッポン 新聞社	外観、館内展示、 実習風景	—	撮影 /研究発表	H21. 9. 1	博物館実習生
絵はがき 他	10	撮影 /ホームページ掲載	H21. 6. 26	個人	土器	1	撮影 /ホームページ掲載	H21. 9. 2	個人
絵はがき 他	4	撮影 /刊行物掲載	H21. 7. 3	湘南リビング 新聞社	絵はがき	1	撮影 /テレビ放映	H21. 9. 3	テレビ朝日 映像(株)
絵はがき	11	撮影 /刊行物掲載	H21. 7. 7	(株)Sonny & Co	館内展示	—	撮影 /個人的趣味	H21. 9. 12	個人
絵はがき	6	撮影 /刊行物掲載	H21. 7. 8	読売新聞 大阪本社	絵はがき 他	6	撮影 /テレビ放映	H21. 9. 13	(株)テレビ 神奈川

<資料の特別利用 (No. 2) >

(敬称略)

資料名	点数	利用目的	年月日	申請者	資料名	点数	利用目的	年月日	申請者
館内展示	—	撮影 ／個人的趣味	H21. 9. 20	個人	館内展示	—	撮影 ／個人的趣味	H22. 1. 14	個人
仁王像	1	撮影 ／刊行物掲載	H21. 10. 14	個人	館内展示	—	撮影 ／個人的趣味	H22. 1. 30	個人
館内展示	—	撮影 ／個人的趣味	H21. 10. 18	個人	七夕竹神輿	—	撮影 ／授業の教材	H22. 1. 31	学校教諭
館内展示	—	撮影 ／個人的趣味	H21. 10. 21	個人	薬師像写真	5	撮影 ／刊行物掲載	H22. 2. 9	大磯町 観光推進室
城山荘の模型・ 七夕竹神輿	2	撮影 ／個人的趣味	H21. 10. 24	個人	古写真	—	撮影 ／研究資料	H22. 2. 23	広報 カメラマン
ミニ展示	1	撮影 ／刊行物掲載	H21. 11. 23	(株)タウン ニュース社	絵はがき 他	10	撮影 ／研究発表	H22. 3. 2	個人
曾我十郎 大磯通回他 虎女関連資料	5	撮影 ／展示	H21. 11. 30	大磯町 観光推進室	ボーリングデータ	1	複写 ／参考資料	H22. 3. 10	(株)大世工業
絵はがき	3	データ利用 ／刊行物掲載	H21. 12. 15	ひかりのくに(株)	絵はがき 他	10	撮影 ／ホームページ掲載	H22. 3. 15	大磯町 観光推進室
特別展資料	2	撮影 ／個人的趣味	H21. 12. 5	個人	企画展示	12	撮影 ／刊行物掲載	H22. 3. 21	広報 カメラマン
古写真	5	撮影 ／刊行物掲載	H21. 12. 22	大磯町政策課	罎 (企画展示資料)	1	撮影 ／個人的趣味	H22. 3. 28	個人

<資料の館外貸出>

(敬称略)

資料名	点数	利用目的	期 間	申請者	資料名	点数	利用目的	期 間	申請者
写真(絵はがき)	6	テレビ放映	H21. 4. 23 ～ 4. 30	(株)ジーヤマ	城山遺跡 調査出土品	21箱	資料整理	H21. 9. 3 ～ 11. 16	テイケイト レード(株)
扁額	1	講座資料	H21. 5. 14 ～ 5. 14	個人	縄文土器 他	7	講座資料	H21. 9. 5 ～ 9. 7	大磯町 生涯学習課
ボーリングデータ	一括	基礎資料	H21. 5. 29 ～ 6. 17	大磯町 都市計画課	書軸・杖 他	一式	展示	H21. 9. 25 ～ 11. 5	光市 教育委員会
企画展図録	1	参考資料	H21. 6. 26 ～ 7. 31	大磯町 観光推進室	扁額	1	講座資料	H21. 10. 17 ～ 10. 20	個人
古文書	3	資料調査	H21. 7. 1 ～ 7. 14	大磯町立 図書館	城山遺跡 調査出土品	24箱	資料整理	H21. 10. 28 ～ 12. 4	テイケイト レード(株)
フィルム	1	刊行物掲載	H21. 7. 3 ～ 7. 20	(株)Sonny & Co	ボーリングデータ	1	基礎資料	H21. 11. 26 ～ 12. 16	大磯町 都市計画課
剥製 (コシユケイ)	1	展示	H21. 7. 11 ～ 9. 10	愛川町 郷土資料館	城山遺跡 調査出土品	20箱	資料整理	H21. 12. 1 ～ H22. 1. 29	テイケイト レード(株)
横穴墓出土品	14	保存処理	H21. 8. 25 ～ H22. 3. 12	東都文化財 保存研究所	郷土資料	一括	祭事	H22. 3. 6 ～ 3. 7	個人
フィルム	1	刊行物掲載	H21. 8. 27 ～ 9. 16	大磯町 生涯学習課	写真(絵はがき)	10	刊行物掲載	H22. 3. 21 ～ 4. 9	個人
伊藤博文統監 帽及び肩章	一式	刊行物掲載 ／展示	H21. 9. 3 ～ 10. 14	萩博物館					

<備品の館外貸出>

(敬称略)

備品名	点数	利用目的	期 間	申請者	備品名	点数	利用目的	期 間	申請者
公用車	1	消防技術訓練会 資器材等搬送	H21. 5. 24 ～ 5. 26	大磯町 消防署	マルチプロジェクター他	一式	講座	H21. 8. 16 ～ 8. 18	大磯町 子ども育成課
マルチプロジェクター他	一式	会議	H21. 5. 29 ～ 5. 30	大磯町 都市計画課	マルチプロジェクター他	一式	会議	H21. 10. 6 ～ 10. 7	大磯町 ナショナルトラスト
公用車	1	消防技術指導会 資器材等搬送	H21. 6. 16 ～ 6. 17	大磯町 消防署	演台	1	文化祭 オープニングセレモニー	H21. 10. 22 ～ 10. 27	大磯町 生涯学習課
公用車	1	消防救助指導会 資器材等搬送	H21. 6. 23 ～ 6. 25	大磯町 消防署	マルチプロジェクター他	一式	講座	H21. 12. 6 ～ 12. 8	大磯がイト ボランティア協会
マルチプロジェクター他	一式	講座	H21. 7. 29 ～ 7. 30	大磯町 子ども育成課					

<寄贈受入図書>

出版地	寄贈者	書名	発行日	
大磯町	大磯町立大磯中学校	大磯町立大磯中学校要覧 平成21年度	2009/4.	
寒川町	寒川町企画部 町史編さん課	寒川町史研究 第21号	2008/3.	
	寒川文書館	寒川文書館年報 第2号 (平成20年度)	2009/9.	
茅ヶ崎市	茅ヶ崎市文化資料館	文化資料館調査研究報告 18	2009/3.	
二宮町	徳富蘇峰記念館	徳富蘇峰記念館目録 26	2009/4.	
秦野市	秦野市教育委員会	秦野の遺跡	2007/3.	
		秦野の遺跡 2	2009/3.	
		秦野の絵画	2009/11.	
		秦野の文化財 第41集	2008/2.	
		秦野市史項目事典	2009/3.	
平塚市	東海大学校地内遺跡調査団	上ノ台遺跡	2009/3.	
		東海大学校地内遺跡調査団報告 15・16 (2005-2007年度)	2009/3.	
	平塚市教育委員会	広川城跡/高林寺遺跡 : 平成17・18年度市内遺跡緊急調査報告	2009/3.	
		七ノ城遺跡 第3・5地点	2009/3.	
		新町遺跡発掘調査報告書	2008/3.	
	平塚市博物館	炎の証言 第12号	2007/8.	
		平塚市博物館年報 32 (2009)	2009/3.	
湘美会	長瀬寶 : 1912-1987 資料整理報告書	2009/		
藤沢市	湘南考古学研究所	遠藤矢向 (No.158) 遺跡発掘調査報告書	2008/8.	
		亀井野屋中向 (No.104) 遺跡発掘調査報告書 : 日本大学校地内	2009/8.	
		石川鍛冶山 (No.84) 遺跡発掘調査報告書	2009/3.	
		藤沢市長後宿下分 (No.382) 遺跡発掘調査報告書	2009/1.	
			片瀬大源太 (No.11) 遺跡発掘調査報告書 : ミネベア藤沢工場内第5次調査	2009/8.
		藤沢市教育委員会	大地に刻まれた藤沢の歴史 2	2009/3.
			藤沢市文化財調査報告書 第44集	2009/3.
			博物館準備だより 11	2009/3.
		藤沢市文書館	回想の湘南 : 昭和史50選	2009/3.
			秩父坂東湯殿山紀行 (享保十一年)・伊勢太々講道中記 (天保十四年)	2009/3.
	藤沢市文書館紀要 31	2009/3.		
小田原市	小田原市教育委員会	小田原城下本町遺跡第3地点	2008/3.	
		千代南原遺跡第11・13・14地点	2007/12.	
		小田原市郷土文化館	松永耳庵と老櫓荘 : 松永記念館設立五十周年記念特別展	2009/10.
		神奈川県立生命の星・地球博物館	樹洞 : 特別展図録	2009/7.
		神奈川県立生命の星・地球博物館年報 第14号 (2008年度)	2009/12.	
箱根町	箱根町郷土資料館	まつりの風景 : 箱根の年中行事・正月行事から春祭りまで	2009/10.	
		箱根町立郷土資料館館報 第26号	2009/12.	
横浜市	神奈川県立公文書館 盤古堂考古史料展示室	神奈川県立公文書館年報 平成20年度	2009/6.	
		釜利谷東6丁目北地区やぐら群	2009/3.	
		久野山神下遺跡第7地点	2009/3.	
		松久保遺跡第4地点 : 発掘調査報告書	2009/1.	
		西富膳棚遺跡 : 第1地点	2009/3.	
		多古下山神遺跡第1地点	2009/3.	
		中ノ原遺跡F地点	2009/3.	
		横浜みなと博物館	横浜開港祭展 : 50年・100年・150年 企画展 : 横浜みなと博物館開館記念	2009/6.
		神奈川近代文学館	神奈川近代文学館年報 2008年 (平成20年) 度	2009/7.
		横浜市教育委員会	横浜の文化財 : 横浜市文化財総合調査概報 21	2009/3.
			横浜の民家	2010/1.
			横浜市近代和風建築調査報告書	2009/10.
			横浜市文化財調査報告書 第30輯	2009/5.
			鎌倉郡の仏像 : 横浜の文化財 上	1995/3.
			鎌倉郡の仏像 : 横浜の文化財 下	1997/3.

出版地	寄贈者	書名	発行日
		文化財年報：埋蔵文化財 平成19年度；その26	2009/3.
	横浜都市発展記念館	横浜建築家列伝：1850s-1950s	2009/4.
	神奈川県教育委員会	神奈川県の祭り・行事：神奈川県祭り・行事調査報告書	2009/3.
		神奈川県埋蔵文化財センター年報 21	2009/5.
	神奈川県博物館協会	神奈川県博物館協会加盟会員職員名簿 2009	2009/9.
		神奈川県博物館協会会報 第81号	2010/3.
	神奈川県立歴史博物館	横浜開港百五十年：神奈川・世界との交流：特別展	2009/4.
		鎌倉の日蓮聖人：中世人の信仰世界：特別展	2009/10.
		彩色立面図に見る日本の近代建築：銀行・オフィスビルから邸宅まで	2010/2.
		福沢諭吉と神奈川：すべては横浜にはじまる = The gate to the western world Fukuzawa Yukichi and Kanagawa	2009/8.
	馬の博物館 (馬事文化財団)	馬のサーカス・大曲馬(だいきょくば)	2009/10.
	横浜市歴史博物館	文明開化と近代競馬：特別展・横浜開港150周年記念	2009/4.
		お願い!かみさま、ほとけさま：小絵馬に見るひとびとの願い	2008/7.
		ヒトが移るモノが動く：特別展：古代の東国に・その痕跡を探る	2007/4.
		横浜市歴史博物館紀要 第12号	2008/3.
		横浜市歴史博物館紀要 第13号	2009/3.
		横浜市歴史博物館資料目録 第16集	2008/3.
		横浜市歴史博物館資料目録 第17集	2009/3.
		横浜市歴史博物館調査研究報告 第4号	2009/3.
		海賊：室町・戦国時代の東京湾と横浜：横浜開港一五〇周年記念特別展	2009/4.
		古代のムラの神・仏：企画展	2008/5.
		黒船・開国・社会騒乱：日記にみる150年前の横浜	2009/1.
		横浜開港150周年記念企画展	
		昭和30-40年代の旅：乗り物・おみやげでたずねる よみがえる旅のキオク	2007/7.
		青葉の村々と矢倉沢往還：江戸時代のよこはま：企画展	2008/1.
		鶴見合戦：『太平記』にみる横浜：12-14世紀の武蔵と鎌倉：企画展	2007/1.
		縄文文化円熟：華蔵台遺跡と後・晩期社会：特別展	2008/1.
	かながわ考古学財団	かながわの考古学：研究紀要 15	2010/3.
		久野下馬道上遺跡(第II地点)：酒匂川流域下水道箱根小田原幹線事業に伴う発掘調査	2009/12.
		原宿町遺跡・原宿五丁目遺跡第I地点：一般国道1号原宿交差点改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	2009/3.
		桜山うつき野遺跡II(第2次調査)	2010/3.
		三ノ宮・下木津根遺跡：県道63号(相模原大磯線)交通安全施設等整備事業に伴う発掘調査	2009/9.
		山下居留地遺跡	2010/3.
		小出川河川改修事業関連遺跡群 3	2010/3.
		小田原城跡八幡山遺構群IV(第4・5次調査)	2010/3.
		松葉ヶ谷奥やぐら群	2010/2.
		上ノ町遺跡 3	2009/12.
		城際遺跡 第I分冊	2010/3.
		城際遺跡 第II分冊	2010/3.
		城際遺跡 第III分冊	2010/3.
		正光寺・自得寺周辺やぐら群：平成21年度国有崖地崩落防止工事に伴う発掘調査	2010/3.
		長谷大谷やぐら群：平成20・21年度鎌倉市内急傾斜地(長谷佐助地区)崩壊対策工事に伴う発掘調査	2010/3.
		津久井城跡(本城曲輪群地区) 2	2010/1.
		津久井城跡馬込地区 第1分冊(本文編)	2010/2.
		津久井城跡馬込地区 第2分冊(写真図版)	2010/2.
		年報 16	2009/12.
		明石谷東やぐら群 II	2010/3.
	神奈川県埋蔵文化財センター	横浜開港の考古学：かながわの遺跡展2009・巡回展	2009/12.
川崎市	川崎市立日本民家園	旧北村家住宅	2009/7.

出版地	寄贈者	書名	発行日
		旧鈴木家住宅	2010/1.
川崎市	川崎市市民ミュージアム	川崎市市民ミュージアム紀要 第22集	2010/3.
		灯りの情景展：灯りと人の物語	2009/10.
		幕末・明治期の川崎とニッポン：横濱開港150周年	2009/4.
鎌倉市	鎌倉市教育委員会	鎌倉の埋蔵文化財：平成19年度発掘調査の概要 12	2009/3.
		鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書：平成20年度発掘調査報告 25 第1分冊	2009/3.
		鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書：平成20年度発掘調査報告 25 第2分冊	2009/3.
	鎌倉文化研究会	大町釈迦堂口遺跡発掘調査報告書	2009/7.
		鎌倉 107号	2009/6.
		鎌倉 108号	2009/12.
逗子市	逗子市教育委員会	国指定史跡長柄桜山古墳群第1号墳発掘調査概要報告書 平成18年度 -平成20年度	2009/3.
横須賀市	横須賀美術館	横須賀美術館年報 2007年度	2009/3.
葉山町	葉山しおさい博物館	三浦半島藻場の生物	2009/3.
厚木市	厚木市教育委員会	荻野山中藩：平成21年度厚木市史発刊記念展示図録	2009/10.
		金ノ御嶽遺跡	2009/3.
		厚木市郷土芸能保存会創立30周年記念誌	2009/3.
	神奈川県自然環境保全センター	神奈川県自然環境保全センター報告 第6号	2009/3.
海老名市	ブラフマン	国分南原西遺跡第2次調査：海老名市国分南三丁目901の一部における埋蔵文化財発掘調査報告書	2009/5.
		国分尼寺北方遺跡第36次調査：海老名市上今泉二丁目1464番2外における埋蔵文化財発掘調査報告書	2009/5.
		上今泉中原遺跡第8次調査：海老名市上今泉五丁目236番外1筆における埋蔵文化財発掘調査報告書	2009/6.
		天神添北遺跡No.122渋谷城跡 No.390 第5・6次調査：藤沢市長後天神添における埋蔵文化財発掘調査報告書	2009/11.
		本郷中谷津遺跡第17次調査：神奈川県海老名市：海老名市本郷中谷津2658番地の1における埋蔵文化財発掘調査報告書	2009/12.
相模原市	相模原市教育委員会	シンポジウム勝坂遺跡のある風景：遺跡をイキイキさせるには？	2004/10.
		下九沢相模原遺跡	2009/3.
		国指定史跡勝坂遺跡D区：勝坂遺跡保存整備に伴う発掘調査報告書	2009/3.
		国指定史跡田名向原遺跡保存整備報告書	2009/3.
		相模原市文化財年報 平成19年度	2008/3.
		相模原市文化財年報 平成20年度	2008/11.
		津久井城の調査 3 (2006-2008)	2009/3.
大和市	大和市教育委員会	浅間神社と義経の財宝	2009/3.
茨城県	稲敷市立歴史民俗資料館	稲敷の仏像・寺院調査報告 1	2009/3.
		稲敷市立歴史民俗資料館館報 第3号	2009/3.
	小美玉市立玉里史料館	小美玉市史料館報 第3号	2009/3.
	上高津貝塚 ふるさと歴史の広場	永国 遺跡：茨城県土浦市：宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2009/1.
	土浦市教育委員会	土浦の文化財	2009/3.
栃木県	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	ムラから見た古墳時代：古墳時代前期・中期を中心として	2009/9.
		栃木県立しもつけ風土記の丘資料館年報 第23号 (平成20年度)	2009/10.
群馬県	渋川市教育委員会	三原田諏訪上遺跡 5・南雲諸峯遺跡：縄文時代中期・平安時代集落の調査	2009/5.
		渋川市市内遺跡 2	2009/3.
		渋川市誌研究 第2号	2009/9.
		津久田上安城遺跡：平安時代製鉄炉を伴う集落の調査	2009/3.
		白井玉椿遺跡	2009/3.
	富士見村教育委員会	時沢宮東遺跡：店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2006/12.
		時沢西高田遺跡：宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2004/3.
		時沢西萩林遺跡：宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2007/3.
		村内遺跡 平成14年度	2002/3.
		村内遺跡 平成15年度	2003/3.

出版地	寄贈者	書名	発行日	
埼玉県	立正大学博物館	村内遺跡 平成16年度～平成19年度	2007/3.	
		遺跡調査室年報 XⅢ (平成20年度)	2009/3.	
	春日部市教育委員会	題目板碑の世界 : 立正大学博物館第6回特別展	2009/11.	
		撫石庵コレクション考古資料図録 3		
		立正大学熊谷キャンパスの遺跡 : 熊谷校地内遺跡調査30年のあゆみ	2009/7.	
		立正大学博物館第6回企画展		
		立正大学博物館年報 7 (平成20年度)	2009/4.	
		犬塚遺跡4次地点・貝の内遺跡1. 7. 14. 16次地点	2009/2.	
		小淵山下北遺跡14次地点	2008/9.	
		鶴ヶ島市教育委員会	紀要 9号	2009/3.
		鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書	2010/3.	
		鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ	2009/11.	
	日高市教育委員会	日高市埋蔵文化財調査報告書 第33集	2009/3.	
	三芳町教育委員会	中東遺跡第2地点発掘調査の概要	2008/7.	
		藤久保第一土地区画整理事業に伴う藤久保東遺跡発掘調査の概要	2009/3.	
		藤久保東遺跡 2 第1分冊: 本文編	2009/3.	
		藤久保東遺跡 2 第2分冊: 写真図版編	2009/3.	
		藤久保東遺跡 2 第3分冊: 石器・礫属性表.	2009/3.	
		藤久保東遺跡 2 第4分冊: 付図	2009/3.	
		藤久保東第三遺跡第4地点発掘調査報告書	2008/3.	
	南止遺跡H地点 : 墓地増設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2010/3.		
	本村南遺跡第11地点発掘調査の概要	2009/3.		
	俣埜遺跡K地点発掘調査の概要	2006/3.		
千葉県	伊能忠敬記念館	伊能忠敬記念館年報 第10号 (平成19年度)	2009/3.	
	国立歴史民俗博物館	縄文はいつから!? : 1万5千年前になにがおこったのか : 企画展示	2009/10.	
		日本建築は特異なのか : 東アジアの宮殿・寺院・住宅 : 企画展示	2009/6.	
		百鬼夜行の世界. 人間文化研究機構連携展示	2009/7.	
	市立市川自然博物館	市立市川自然博物館年報 No.19 (平成19年度)	2008/12.	
	松戸市立博物館	関場遺跡第2地点出土旧石器資料報告・寒風台遺跡出土石器再整理報告	2009/3.	
		人生儀礼の世界 : 平成21年度企画展	2009/10.	
	千葉県立中央博物館	千葉県立中央博物館研究報告 人文科学 第11巻1号	2009/3.	
	船橋市飛ノ台史跡公園博物館	料理と厨房の歴史 : こんなに変わった日本の食卓		
		平成21年度船橋市飛ノ台史跡公園博物館企画展	2009/11.	
東京都	港区教育委員会	上野沼田藩土岐家屋敷跡遺跡発掘調査報告書	2006/3.	
		乗泉寺跡・大法寺跡遺跡円福寺跡遺跡発掘調査報告書. 銭貨・人骨編	2004/3.	
		石見津和野藩亀井家屋敷跡遺跡発掘調査報告書 2	2009/3.	
		長門長府藩毛利家屋敷跡・麻布桜田町屋跡遺跡発掘調査報告書	2004/3.	
		長門長府藩毛利家屋敷跡遺跡発掘調査報告書 2	2004/3.	
		肥後熊本藩細川家屋敷跡遺跡発掘調査報告書	2009/3.	
		港区立港郷土資料館	港区指定文化財 平成21年度	[2010/3.]
			徳川家霊廟 : 増上寺	2009/10.
		文化環境研究所	Cultivate No.34	2009/7.
			Cultivate No.35	2010/2.
	文環研レポート 第28号		2009/7.	
	文環研レポート 第29号		2010/2.	
	くにたち郷土文化館	水車の時代 : 暮らしと産業を支えた水車の力 : 平成21年度秋季企画展	2009/1.	
	日本ユネスコ協会連盟	世界遺産年報 : the world heritage 2010 (No.15)	2009/12.	
	杉並区立郷土博物館	杉並区立郷土博物館研究紀要・年報 平成20年度版	2009/9.	
		大田黒元男の足跡 : 西洋音楽への水先案内人 : 没後30年特別展	2009/11.	
	駒澤大学 禅文化歴史博物館	駒澤大学禅文化歴史博物館年次報告書 平成20年度	2009/6.	
		窯跡資料にみる有田焼の変遷 : 有田・南川原窯ノ辻窯跡出土の陶磁器		
		考古資料展 4「有田焼の考古学」図録	2010/2.	
	世田谷区教育委員会 次大夫堀公園民家園 科学技術振興機構	世田谷の大工 : 砧・玉川地域の系譜		
平成21年度次大夫堀公園民家園企画展		2009/11.		
Science window : 科学するところを開く Vol.3 No.3 (27)		2009/8.		
	Science window : 科学するところを開く Vol.3 No.4 (28)	2009/10.		
	Science window : 科学するところを開く Vol.3 No.5 (29)	2009/12.		

出版地	寄贈者	書名	発行日
		Science window : 科学するところを開く Vol.3 No.6 (30)	[2009/12.]
		Science window : 科学するところを開く Vol.3 No.7 (31)	2010/2.
憲政記念館		激動の明治国家建設特別展	2009/11.
昭和館		昭和のくらし研究 第7号	2009/3.
		昭和館館報 第10号 (平成20年度)	2009/10.
日本学術振興会		科研費news : 科学研究費補助金 : grants-in-aid for scientific research 2009 Vol.1	[2009/8.]
		科研費news : 科学研究費補助金 : grants-in-aid for scientific research 2009 Vol.2	[2009/10.]
		科研費news : 科学研究費補助金 : grants-in-aid for scientific research 2009 Vol.3	[2010/2.]
日本博物館協会		日本の博物館総合調査研究報告書 : 地域と共に歩む博物館育成事業	2009/3.
		博物館評価制度等の構築に関する調査研究報告書 : 地域と共に歩む博物館育成事業	2009/3.
文部科学省		博物館における施設管理・リスクマネジメントガイドブック : 博物館における施設管理・リスクマネジメントに関する調査研究報告書. 発展編	2010/3.
文化庁		「平成21年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業」採択事業実施状況報告書	2009/12.
明治大学学芸員養成課程		"Museum study : Bulletin of the Course for Prospective Museum Workers, Meiji University" 21	2010/3.
		Museologist : 明治大学学芸員養成課程年報 25	2010/3.
多摩市文化振興財団 パルテノン多摩		「ひらけ!アルバム!!多摩の風景いま・むかし」ガイドブック	2009/3.
国立科学博物館		鍛冶屋のあゆんだ幕末・明治 : 乞田鍛冶からひょうたん鍛冶へ : 企画展	2009/3.
		Milsil : 自然と科学の情報誌 Vol.2 No.3 (9)	2009/5.
		Milsil : 自然と科学の情報誌 Vol.2 No.4 (10)	2009/7.
		Milsil : 自然と科学の情報誌 Vol.2 No.5 (11)	2009/9.
		Milsil : 自然と科学の情報誌 Vol.2 No.6 (12)	2009/11.
		Milsil : 自然と科学の情報誌 Vol.3 No.1 (13)	2010/1.
		Milsil : 自然と科学の情報誌 Vol.3 No.2 (14)	2010/3.
東京都美術館		東京都美術館年報 平成21年度	2009/8.
中央区立郷土天文館 タイムドーム明石		匠の生きたまち : 中央区立郷土天文館第8回特別展	2009/10.
伝統文化活性化国民協会		伝統文化 No.31 (平成21年・陽春)	2009/3.
		伝統文化 No.32 (平成21年・夏)	2009/8.
		伝統文化 No.33 (平成21年・秋)	2009/11.
		伝統文化 No.34 (平成22年・新春)	2010/1.
玉川大学教育博物館		玉川大学教育博物館館報 第7号 2008年度	2009/8.
吾妻考古学研究所		山下横穴群発掘調査報告書	2009/3.
		尾尻沢山横穴墓群 : 発掘調査報告書	2008/1.
		末長向台遺跡第2地点・末長向台古墳群 : 発掘調査報告書	2009/3.
		野川東耕地北遺跡 : 発掘調査報告書	2009/3.
東京家政学院 生活文化博物館		東京家政学院生活文化博物館年報 第19号	2009/3.
調布市郷土博物館		深大寺展 : 開館35周年記念特別企画	
東京家政大学博物館		ハートフル・ミュージアム : 思い出のひと品 : 第21回特別展	2009/10.
板橋区教育委員会		いたばしの文化財 第6集	2009/3.
板橋区立郷土資料館		貝塚に学ぶ : 考古学者・酒詰仲男と地球環境 : 秋季特別展	2009/10.
		甲冑 西と東 : 西洋甲冑と日本甲冑・南蛮胴具足	2009/7.
		中山道板橋宿と加賀藩下屋敷 : 特別展 : 板橋区・金沢市友好交流都市協定締結記念	2010/2.
		板橋区立郷土資料館紀要 第17号 (2009)	2009/3.
共和開発		舟渡遺跡第9地点 : 舟渡一丁目10番地点 ; 舟渡遺跡第10地点 舟渡一丁目18番地点発掘調査報告書 : 東京都板橋区	2009/7.
府中市郷土の森博物館		新宿菊池家文書目録 1	2010/1.
		府中市郷土の森博物館紀要 第23号 (2010年)	2010/3.

出版地	寄贈者	書名	発行日
	福生市郷土資料室	府中市郷土の森博物館年報 第23号 (平成20年度)	2010/2.
	お茶の水女子大学 学芸員課程委員会	松原庵の宗匠 : 星布と友昇の俳諧 博物館実習報告 第25号 (2009年度)	2009/9. 2009/12.
	豊島区立郷土資料館	トキワ荘のヒーローたち : マンガにかけた青春 椎名町物語 : トキワ荘のあった街	2009/10. 2009/10.
	東京都江戸東京博物館	館蔵地図目録 1 大伝馬町名主の馬込勘解由	2009/3. 2009/3.
長野県	茅野市教育委員会	市内遺跡 : 埋蔵文化財発掘調査報告書 III 尖石地区環境整備事業報告書	2009/3. 2009/3.
	茅野市八ヶ岳総合博物館	紀要 第17号 (平成20年度)	2009/3.
静岡県	沼津市歴史民俗資料館	沼津市博物館紀要 33	2009/3.
	焼津市歴史民俗資料館	焼津市歴史民俗資料館年報 23 (平成20年度)	2009/10.
愛知県	安城市歴史博物館	私の好きな逸品 : 収蔵名品展 : 平成21・22年度ミュージアム・スポット 徳川家康の源流安城松平一族 年報 第18号	2010/3. 2009/1. 2004/
	一宮市尾西歴史民俗資料館	美濃路を行き交う大名 : 特別展	2009/10.
	豊橋市自然史博物館	豊橋市自然史博物館年報 第21号 平成20年度	2009/6.
	豊橋市二川宿本陣資料館	装身具の美 : 印籠・煙草入れ・髪飾りにみる江戸の装い 鉄道開通 : 列車に乗って東へ西へ 二川宿本陣まつりひなまつり 豊橋市二川宿本陣資料館年報 平成19・20年度 没後20年関野準一郎の東海道五十三次展 : 街道を描き続けた版画家 六十余州名所図会 : 広重の描いた諸国の名所	[2009/] 2009/7. 2009/2. 2009/8. 2008/7. 2009/4.
三重県	亀山市歴史博物館	むかしの建物を調べてみよう : 亀山建物資料めぐり 第6回企画展 こどもも!おとなも!調べて納得博物館	2008/3. 2009/3.
	鈴鹿市考古博物館	未来へつなぐ宝物 : 第1回郷土資料室・新収蔵品展 鈴鹿市考古博物館年報 第10号 (平成19年度版)	2009/1. 2008/12.
	神宮徴古館農業館	現代刀の100年 : 復興と継承	2010/1.
滋賀県	草津市教育委員会	近江国長安寺文書調査報告書	2009/3.
大阪府	大阪市立自然史博物館	「自然史博物館」を変えていく きのこのヒミツを知るために : きのこを見つめなくなったあなたのための手引き : 第40回特別展「きのこのヒミツ」展解説書 ナガスケ : おおさかのうみでみつかったクジラのおはなし ホネで学ぶ、ホネで楽しむ 第39回特別展「ホネホネたんけん隊」展解説書	2009/6. 2009/9. 2010/1.
	富田林市教育委員会	三木茂博士寄贈水草腊葉標本目録 自然史研究 Vol.3 No.10 28-XII-2009 大阪市立自然史博物館館報 33(平成19年度) 大阪市立自然史博物館研究報告 第63号 新家遺跡 1 畑ヶ田南遺跡 2 富田林市内遺跡群発掘調査報告書 平成20年度	2009/3. [2009/] 2009/3. 2009/3. [2009/] [2009/] 2009/3.
兵庫県	たつの市立龍野歴史文化資料館	忠臣蔵と旗本浅野家	2009/10.
山口県	萩博物館	伊藤博文とその時代 : 没後100年記念	2009/9.
高知県	高知県立牧野植物園	高知県立牧野植物園年報 第8号 (2008)	2009/8.
北海道	北海道開拓の村	開拓の村展示建造物からみた明治・大正期の生活文化史 財団の事業報告 平成20年度 北の開拓物語 : 北海道開拓期の再現映像 北海道開拓の村研究紀要 2	2007/1. 2009/7. [2009/] 2009/5.
青森県	青森県立郷土館	青森県立郷土館報 36号 (2009年度)	2009/4.

<受入機関誌・広報誌>

出版地	発行者	誌名	巻号	発行年月
寒川町	寒川文書館	寒川文書館だより	4-6	2008/9, 2009/3. 9.
茅ヶ崎市	茅ヶ崎市文化資料館	ちがさきの石仏	12	2009/10.
秦野市	野生動物救護の会	Runner	5, 6	2009/7. 12.
小田原市	神奈川県立生命の星・地球博物館	自然科学のとびら	57-60	2009/6. 9. 12, 2010/3.
横浜市	神奈川県博物館協会	Network	30	2009/9.
	神奈川県立公文書館	神奈川県立公文書館だより	22	2009/10.
	岩崎博物館	岩崎ミュージアムプレス	111-118	2009/1. 3. 5. 7. 8. 10. 12, 2010/2.
	神奈川県立近代文学館	神奈川県立近代文学館	104-107	2009/4. 7. 10, 2010/1.
	神奈川県立歴史博物館	神奈川県立歴史博物館だより	180-182	2009/3. 10. 11.
	横浜都市発展記念館	ハマ発newsletter	12, 13	2009/7, 2010/2.
	横浜市歴史博物館	横浜市歴史博物館news	28	2009. 5
	かながわ考古学財団	考古学財団発掘帖	8-11	2009/3. 6. 10. 12.
川崎市	川崎市立日本民家園	日本民家園だより	Vol. 71, 72	2009/7. 12.
鎌倉市	鶴岡八幡宮宝物殿	社報 鶴岡	109, 110	2009/6, 2010/1.
	鎌倉考古学研究所	かまくら考古	3	2010. 2
横須賀市	横須賀美術館	Corridart	3, 4	2009/3. 9.
清川村	丹沢自然保護協会	丹沢だより	462-472	2009/4. -2010/3.
埼玉県	埼玉県立川の博物館	かわはく	33-36	2008/11, 2009/3. 7. 12.
千葉県	市立市川自然博物館	博物館だより	115-120	2008/4. 6. 8. 10. 12, 2009/2.
	松戸市立博物館	松戸市立博物館年報	15, 16	2008/8, 2009/8.
東京都	東京都江戸東京博物館	江戸東京博物館news	65-68	2009/3. 6. 9. 12.
	豊島区立郷土資料館	かたりべ	95	2009/10.
	府中市郷土の森博物館	あるむぜお	88-91	2009/6. 9. 12, 2010/3.
	靖国神社遊就館	靖国	648-656	2009/7. -2010/3.
	港区立港郷土資料館	港郷土資料館だより	64, 65	2009/9, 2010/3.
	港区立港郷土資料館	港区立港郷土資料館へ行ってみよう!	6, 7	2008/12, 2010/3.
	お札と切手の博物館	お札と切手の博物館ニュース	27	2009/12.
	神奈川県自然観察指導員連絡会事務局	自然観察	333-343	2009/5. -2010/3.
	台東区立下町風俗資料館	下町風俗資料館號外	8/1, 3/5	2009/8, 2010/3.
	玉川大学教育博物館	博物館ニュース Shu	33	2009/8.
	多摩市文化振興財団	パルテノン多摩MUSEUM NEWS	13, 14	2008/1, 2009/12.
	物流博物館	物流博物館NEWS	10	2009/9.
	杉並区立郷土博物館	炉辺閑話	41	2009/10.
	調布市郷土博物館	郷土博物館だより	72	2009/3.
	調布市郷土博物館	調布の文化財	43	2009/3.
山梨県	環境庁自然保護局生物多様性センター	生物多様性センターニューズレター	27	2009/9.
岐阜県	藤村記念館	藤村記念館だより	125-127	2009/6. 11, 2010/1.
	静岡県立美術館	アマリリス	93-96	2009/4. 7. 10, 2010/1.
	沼津市歴史民俗資料館	沼津市歴史民俗資料館だより	185	2009/3.
愛知県	安城市歴史博物館	博物館ニュース	74, 75	2009/10, 2010/1.
	豊橋市美術博物館	風伯	72-75	2009/5. 8. 11, 2010/2.
高知県	高知県立牧野植物園	高知県立牧野植物園だより	37, 38, 40	2009/4. 7, 2010/1.
福岡県	アジア水中考古学研究所	Newsletter	2	2009/12.
沖縄県	海洋博覧会記念公園管理財団	南ぬ風	11-14	2009/4. 7. 10, 2010/1.
岩手県	牛の博物館	牛のはくぶつかん	34	2010/2.

研 究 報 告

新聞記事にみる大磯海水浴場事情

*飯田福信 *佐川和裕

一 はじめに

平成三年度より開始された大磯町史編さん事業は、本編・別編一〇巻すべてを刊行し、平成二十年度にはダイジェスト版も刊行され、その事業を終了している。この間、近・現代資料整理の一環として、大磯町に関わる新聞記事を集めた『大磯町史新聞記事目録』第一集・第二集が刊行され、併せてマイクロフィルムによる閲覧も可能となり一般の利用に供されている。新聞記事の一部には、取材頻度による信憑性、記者の独善的な解釈、話題性を得るための誇張などの可能性も否定できないが、メディアとして対象とする事柄をどのように論じているのかという点ではさまざまな視点を留意してくれている。

既に筆者も大磯町内の民俗行事に関して新聞記事からのアプローチを試みている(一)。記録性の乏しい民俗行事にあって、新聞記事として記述された内容を整理することで、補助的な情報資料としての有用性を検証しようとしたものであり、さまざまな社会状況によって常に変化しながら継承されてきた民俗行事の変遷過程を知るには好都合であった。また、明治天皇や大正天皇崩御により喪に服していた期間(諒闇)という特異な状況下における行事の様子を知ることでも、新聞記事が極めて有用であることを実感した。

そこで、本稿では大磯海水浴場(二)に関わる新聞記事を集成することにした。明治十八年(一八八五)、陸軍軍医総監を既に退官していた松本順の進言によって開設をみた大磯海水浴場については大方の知るところであろう。当館でも、平成十九年度に開催した松本順没後100周年記念展「大磯の蘭疇 松本順と大磯海水浴場」において取り上げており、通史的な流れについては把握することができる。しかし、例えば開設にあたっての経緯については、『松本順自伝』や『蘭学全盛時代と蘭疇の生涯』(鈴木要吾)から読み取れるものの、明治四十三年七月七日の横浜新聞には、これらの文献にはない具体的な経緯や関係者の実名などが詳しく記されている。もちろん、海水浴場開設後二十五年を経たからの記事であるため注意が必要だが、大きな手がかりとなることは間違いない。また、その後の大磯海水浴場の変遷についても、断片的な資料はあるものの、体系的に十分な検討がなされているわけではない。少なくとも新聞記事による情報の補填作業が有効であると思われる所以である。

本稿では、数多くの大磯海水浴場を取り上げた新聞記事の中から、大磯海水浴場と浴客、旅館、別荘の消長のほか、度重なる海水茶屋(掛茶屋)の運営に関わる紛争など、その時々町の状況の中でポイントとなるような記事を抽出して解題を試みた。そこには断片的な公文書からは窺い知れないような内容を垣間見ることができ、また、本稿でも諒闇という特殊な条件下において、海水浴客や避暑避寒客にどのような影響があったのかを知ることができた。ただし、大磯海水浴場に関わる新聞記事量は非常に多く、本稿で取り上げた記事は昭和九年(一九三四)までであり、かつ全体の一部に過ぎない。その意味では研究の余地のある分野といえよう。

〔*資料調査協力者 **当館学芸員〕

【註】

(一) 飯田福信・佐川和裕「新聞記事にみる大磯町内の民俗行事(一)」『大磯町史研究』第十四号 平成十九年 大磯町、飯田福信・佐川和裕「新聞記事にみる大磯町内の民俗行事(二)」『大磯町史研究』第十五号 平成二十年 大磯町

(二) 大磯において最初に海水浴場が開設されたのは、照ヶ崎海岸であるが、文献によって大磯海水浴場、照ヶ崎海水浴場の呼称が使われた。その後、浴場は拡大して北進し、高磯海水浴場、北浜海水浴場などの呼称も使われるようになる。本稿では総称として大磯海水浴場と呼ぶ。

二 新聞記事解題

●大磯の禱龍館

曾て記せし如く松本良順、松平太郎等の諸氏が發起にて大磯に開きたる海水浴場禱龍館(曩日瀧龍館と記せしは誤り)は準備も殆んど整ひたれば来月七日に至りて盛んなる開業式を行ふ筈なるよし 当日は松本氏の周旋にて俳優社会の大檀那とも云ふべき団十郎を東京より呼び何にうの催ふしありといふ 『毎日新聞』明治二十年七月二十一日

●大磯の禱龍館

(前略) 大磯小ゆるぎの浜は至極海浴に適し且つ風景もある上東海道鉄道の便開けて停車場の地ともなりければ此所に海水浴場を開かんとて先頃より松平太郎、松本順等の諸氏發起し禱龍館とい

松本順(良順)が、友人である松平太郎らとともに設置を進めていた旅館「禱龍館」の準備が概ね整い、明治二十年八月七日に開業式を執り行うことが分かる。当日は松本の計らいにより、市川団十郎を迎えて催しを開くという。

海水浴場を臨む大旅館「禱龍館」の開業式や同館の様子などが窺える記事である。

落成した禱龍館は、八月七日に

へるを設けたるが粗ぼ落成せしに付一昨日京浜間より貴紳国手の人々及び新聞記者發起人知因の諸氏凡そ二百名近くを招き盛んなる開業式を行へり此日同地は高麗神社の祭日と同館の開業とを兼ねて頗る賑ひ此外海水浴の爲め京浜より出掛けて土地の旅店等に止宿し居るもの四百人近くもあるとのことなれば旁た近年になく引立ちし景気なり禱龍館は停車場より駅に入りて右へ三丁程を行きし所の左側にあり 入口には緑門を設け国旗を掲げり 館は残らず日本造りの二階屋にて海に向ひ楼下左側に添ふて海水浴場(即ち海浜)の入口を設く 招待賓へは夫々饗応ありて余興に煙火を打ち挙げ且つ団十郎、左団次、芝翫其他新富座の俳優数名、落語家燕枝、小さんなど席を周旋し中にも升蔵、橘次等の茶番ありたり 海水浴には来賓氣儘に入りて打寄する大波小波に体を打たせ或は磯に枕して余波に揺らせるなど面白くも心地爽かに覚へ出るを忘るゝ計りなりし 浜の傍らに麦藁にて龍を造り嬪婦が珠を奪ひ去る所の飾り物ありたり 来賓中には榎本通信大臣、長與衛生局長等を見受けしが多き中には夕方より帰途に就くあり又た前日より江の島鎌倉を廻り来て此の海水浴に立寄り夫れより小田原まで越さんとして出立し飽迄鉄道の便を利かせて数日の消暑を為す人あり 又たハ泊り込むなど思ひ思ひなりし 同館は楼上楼下とも客間大小交せて三十余間及び料理室海水温浴場等ありて浴客の滞在中は日本料理なり西洋料理なり好みに応じて調理し極客の便を計る趣きなれば旁た同館の繁昌を期すべきなり

『毎日新聞』明治20年8月9日

●大磯の海水浴

近頃評判の高き大磯の海水浴にては是迄海浜の浴場へは別段仕切の設けあらざりしより浴客中に

開業式を開催した。当日は、東京や横浜方面より貴顕紳士や名医、新聞記者、禱龍館設立の發起人の知人など三百名近くが招待されて盛況であつた。招待客の中には、市川団十郎、市川左団次、中村芝翫や新富座の俳優、落語家のほか榎本武揚通信大臣、長與専齋衛生局長なども見受けられた。新富座では後に禱龍館を舞台とした歌舞伎演目「名大磯湯場対面」が上演されることになる。また、この日は大磯の氏神・高麗神社の祭礼日に重なつたとあるが、本来は七月十七日であるため疑問が生じる。いずれにしても、四百人近くが地元の旅館等に宿泊しており、近年にない好景気であつたようだ。

なお、禱龍館は停車場から三百メートル余りの距離にあり、入口の「緑門」には国旗が掲げられていた。建物はすべて日本家屋の二階建てで海に面しており、階下には海水浴場への入口が設けられていた。館は一、二階の客間大小併せて三十余間あり、調理室や海水温浴場などもある。滞在中は、日本料理や西洋料理を、浴客の好みに応じて提供することができるとしている。

大磯海水浴場が開設されて三年目、評判も次第に高くなつてきた

は自然深入りをなすなど危険のともありしが、今度土地のもの協力し鉄柵にて仕切を設けたれば此後は右等の心配もなかるべしといふ

『毎日新聞』明治20年8月19日

●大磯有志旅亭中(海水浴場の注意)

海浴ノ功驗明著ナルヨリ来客ノ屢集スルニ從テ丁荘客氣ノ諸君中客舎ノ忠告海瀕備夫ノ止ムヲ聽玉ハズ 僅カノ泳技ヲ頼テ深淺ヲ知ラス嶮浪ニ侵サル、コト間々少ナカラス 多勢ノ客三四者ノ手ヲ以テ是ヲ濟フニ由ナク徒ラニ魚腹ニ入玉ハンコトヲ憂ヒ 土人ノ協力ヲ以テ以來浴場二分界ヲ画シ浴者諸君ノ危嶮ヲ保守センコトヲ企望ス 願クハ海浴者各自ヲ注意シ此境外ニ出テ玉ハザランコトヲ希フ也 『毎日新聞』明治20年8月19日

●大磯海水浴 の虚弱なる人に効能あるは言ふまでもなく殊に胃弱症に著るしき効あり 予の如き(通信者) 兎角胃弱にして東京にあるの日は三度の食事(粥)さへ進み兼ねる程なりしに 同所に至り二日間朝、昼、晩の三度ツ、浴せしに三日目より食事(飯)進み大に爽快を覚へり、本年海水浴始まりて以来浴客一人の溺死ありし為め岩を界りて鉄杭を立てたれど別に困ひを為したるにもあらねば遊泳に達者なる者は格別成る丈磯近かにて浴すべし 禱龍館は賄料普通三食四十銭(大人小兒の別なし) 外に座敷料(八畳敷)二十五銭乃至卅八銭、夜具料廿五銭、廿銭、十五銭、十銭の四通りあり 一人前一日安く積るも一昼夜に七十五銭位かゝるが目下浴客六十人以上あり扱て此館を除き他に旅店あるかと云に汽車便の開けざる時は旅人多くは平塚、小田原の内に泊り此の大磯は殆んど間の宿の如くなり居たれば貸座敷の外は是といふ旅店なく依て養生に出掛る人は農家に就て座敷を借り切るもあり 近頃中村吉兵衛(農旅

が、これまで海水浴場には区域を示す仕切りがなく、危険な箇所もあつたため、鉄柵を設け安全を確保したことが分かる。

海水浴の効用が知れ渡るに従つて浴客が増加する。しかし、浴客のなかには旅館や茶屋の忠告に耳を貸さず、十分な泳力もなく、海の地形も知らないまま、波に翻弄されてしまう者が後を絶たない。そこで、危険な場所に立ち入らないうよう海水浴場の範囲を区画した。

海水浴は、特に「胃弱症」に効能があり、大磯に滞在して海水浴をすれば三日目には食事も大いに進むようになるという。今期(明治二十年)は既に一名の浴客が溺死したとある。そのため、鉄杭を立て岩礁の所在について注意を促しているという。なお、泳ぎの達人者な者ほど過信があるため、岸に近い所で浴すべきだとしている。禱龍館の利用料金の記載もある。食事は三食で四十銭、部屋代が二十五銭、三十八銭、寝具代が十銭、二十五銭で、最低でも一泊につき七十五銭かかることになる。鉄道開設以前は、旅人の多くは平塚や小田原に宿泊していた。大磯では、これといった旅館がなく、農家の座敷を借り切る、いわゆる

店を始めしが是は八畳一間一昼夜大人廿五銭、小児十五銭（夜具料も此中にあり）又石井徳右衛門といふ旅店あり八畳一間（床の間附）座敷料三十銭三食賄三十銭なり。此地に東京三河屋出店の西洋料理あれど極めて不廉なり云々と同地より通信あり。『毎日新聞』明治20年8月28日

●徐公使の温泉行

清国公使徐氏には令息及び楊參贊等と共に一昨日大磯の海水浴へ赴きしが夫れより箱根七湯を巡遊すると云ふ。『毎日新聞』明治20年9月16日

●三島輕視總監 には昨日午前八時四十五分新橋発の汽車にて病氣療養の爲め大磯の海水浴へ赴たり。『毎日新聞』明治21年5月26日

●海水浴の警言

此程鎌倉より帰京せし人の咄しに同地及び大磯の海水浴は去る十八九日頃より漸次浴客多く当今は来客を謝絶する程にて各館主は客室を取上げんと計画し居ると云へり。『毎日新聞』明治21年7月26日

●相州の海水浴 左に載するは此頃相州の海水浴場近辺を遊び来りし某氏が紀行代りにとて記るし越したるものなり

近來温泉行大に流行し夏季に際しては東京近県の温泉地は一時遊客を以て充滿する程なれば隨ひて旅館を増築し道路を修繕し或は遊園を開き或は別荘を新築し其騒ぎ一方ならず、之が爲め其地は折角遊達の仙境なりしも今は熱鬧の一小市と變する趣きあり。〔中略〕此一兩年より海水浴漸く流行して斯く盛んなりし。温泉の遊客も潮浴のために其勢ひを奪はれて盛衰地を換へたる景況なり一盛一衰は世の常なれば怪むには足らざる事ながら流行の一変したるも一奇といふべく是れぞ所謂世の風潮に推されたるものならんか。始め海水浴

貸座敷の利用が主流である。最近では何軒かの旅館が開業して浴客の利用に供しているようである。なお、東京から三河屋という西洋料理店が出店したとあるが、おそらく「三好屋」の誤りと思われる。

避暑避寒や転地療養を目的とした海水浴への来磯など、著名人の動向が新聞紙上で盛んに報道されている。それに合わせて地元では手作りの幟や旗などで歓迎をしていたこともあった。

鎌倉や大磯では、七月も中旬を過ぎると、海水浴客の増加に旅館が対応しきれない状況であるという。海水浴がいよいよ広く普及してきたことがうかがえる。

東京近県の温泉地や海水浴場を訪れた人が記した紀行文を紹介している。近年、避暑避寒を兼ねた湯治が流行しているという。特に夏季には、東京近県の温泉地はたいへんな賑わいで、旅館の増築や道路の修繕、新たな開発により、世俗を離れた静かな場所も騒がしい場所へと変貌しつつあることを嘆いている。

一方で、ここ一兩年から海水浴が盛んになり、温泉客も海水浴に客を奪われている状況だという。

は神奈川県富岡に於て外国人が首唱し一二貴顕の稱賛する所となり。其後大磯に禱龍館及び太田楼を起し鎌倉に海濱院を設け常陸の大洗、房州の北條、下總の千葉、相州の鶴沼、相州の片瀬小田原熱海等東京近県の海岸至る所として海水浴ならざるはなし。其内尤も盛なるは大磯にして本年の如きは貴賤の別なく民家にまで遊客充滿せり。之に次くものは鎌倉にして海濱院はじめ長谷の旅舎三ツ橋其外寺院に民家に遊客の群集なかなかなり。

〔中略〕右の外大磯には高木軍医總監、三島警視總監、沖県知事等の別荘建築中なり。扱斯くの如く海水浴の盛に行はれ別荘の争い起る所以は本年は磐梯山の影響もあるべけれど。近來大抵の医者は頻に潮浴を憚慮し。夫れ肺病海水浴。夫れ胃病海水浴。夫れ子宮病海水浴。夫れリューマチス海水浴と殆んど海水浴の過せざる病症は之なき程の勢なるのみならず海水は温泉の如く泉源一処に局在せず涌出に限りあらざれば海浜の風景よく便利なる処を下して旅館を設け別荘を築く事隨意なればなり。唯だ海水浴の欠点は風雨の際に行ふ能はざると風雨ならざるも奔濤激浪の爲めに潮没に遇ふことある是なり。諺にも云ふ如く能く泳ぐ者は溺ると。泳術を知らざるものゝ危険なるは言を俟たざれど泳術を心得たる者も危き事なり。然れど是迄に左程凶報を聞く事の少きは奇といふべし。一兩日前に大磯鶴沼にて各一人の溺死あり。大磯にては之を聞きて退散する浴客一日に五十人許ありたりといへり。故に海水の浴場には柵杭を設け或は浮環の類（或いはいふ斯る場合には浮環は却て害あり）を興へなどして水葬を免かるゝ工夫あらまほしき事なり。

『毎日新聞』明治21年8月16日

海水浴は神奈川県富岡において外国人が行なつたことが始まりでその後、禱龍館や太田楼を設けた大磯、海濱院を設けた鎌倉、常陸の大洗、房州の北條、下總の千葉、相州の鶴沼や片瀬、小田原など、東京近県の海岸至る所に開設されたが、大磯が最も盛んだという。

この年（明治二十一年）、大磯では高木兼寛と三島通庸が停車場裏に、沖守固が東小磯に別荘を建築中であることが分かる。なお、海水浴の隆盛とともに別荘が盛んに建てられている背景には、磐梯山の影響にも一因があると述べている。これは、この年の七月十五日に磐梯山が大噴火を起こし、山体崩壊をとまなう甚大な被害が発生した出来事を指している。

海水浴が多くの病気に効果があることは、既に広く知られるところであつたが、同時に海水浴をするにあつたの危険性は、まだ十分に認識されていなかったようである。特に溺死者が出ると、浴客は一挙に減少してしまう有様だつた。それ故、浴場に危険防止用の柵を設け、浮き輪を備えるなどの対策を講じていた。また、海水茶屋ごとに雇用していた「じいや」が、浴客の安全確保と遊泳指導に務めていた。

●馬入川の川狩

神奈川県高座郡宮山村辺ハ川狩の好場処にして鮎ハ勿論鯉、鱸等も多く繁殖せるが適當の漁具なきを以て今回横浜町の豪商數氏がゴロ引大網を新調し同地の遊船業金子方へ附與したる由 同川ハ即ち横浜水道水源の支流馬入川にて清涼幽閑の地なるが上に大磯海水浴の途次一里餘の迂回に過ぎざれば昨今遊客多しとのとなり

〔毎日新聞〕明治21年8月28日

●大磯の松林館

は是迄休業し居りたれども追ひ追ひ同所向きの季節になりたれば来る六月一日より開業し万事改良に改良を加へ賄向を廉価にするは勿論取扱上殆ど痒き処に手の届く様勉強するとの事なれば定めし一層浴客の便利を増すなるべし

〔毎日新聞〕明治24年5月30日

●大磯海水浴 来る二十一日開場(餘興として)

手踊茶番煙火打揚 有志旅亭中

今般新に従来の浴場に沿へる巖石を繋り御婦女子達の浴するに安全の浴池を設け潮水は池中を自然に出入し加ふるに従前の浴場は勿論此浴池も共に強固なる鉄柵を以て之れを周らし毫も危険なからしむるに至る依て江湖の諸彦續々御來浴俯て希望

●大磯海水浴の開業式

去る廿二日大磯の有志者及旅亭等の發起にて同所海水浴の開業式を行ひたり 來賓は松本順氏の夫人 曾根大住陶綾郡長 新山警察署長 中川町長其他有志者百余人の來集あり 本年は浴池増設に付例年に異りて海中には堅固なる鉄柵を設け祝浴場開業と大書したる旗數十本を立て海浜にハ舞台を設け其前面に式場を置き正午十二時其式を行へり 烟火ハ午前八時より断間なく打揚げ又た手踊りなどありたり 禱龍館に於ては遊泳競争会を

高座郡宮山村(現・寒川町)あたりは、鮎、鯉、鱸などの好漁場であるが、これまで適當な漁具がなかつたため、横浜の豪商がゴロ引大網を作つて提供した。大磯海水浴場とも近いため、昨今は客足が増えてきているという。

松林館が六月一日より再開することを伝えている。同館は山王町の長者林にあつた旅館で、正岡子規も滞在した。この記事によれば、海水浴客を対象に季節営業をしていたように判断される。

従来の海水浴場の近くに、岩を穿つて婦女子用に「浴池」を作つたとある。また、浴池には自然に海水が出入りするよう工夫され、更には鉄柵をめぐらせるなど、浴客の安全確保に力を入れていた様子が分かる。

六月二十二日に海水浴場の開業式が開かれたことを伝えている。過去にも開業式を開催していたのか、あるいは今回が初めてなのか記事では分からないが、花火を合図に踊り、遊泳競争会などが催され、多くの來観者で賑わつた様子が窺われる。「浴池」の増設に伴い新たに安全確保のための鉄柵を設

催したり 來観者無慮數千名流石に広き浴場も殆んど立錫の余地なかりしとぞ

〔毎日新聞〕明治24年6月25日

●避暑案内(五) 大磯

大磯は東京を去る十七里八丁余 汽車賃四十三錢二時間余にして到るを得 時三伏に至たるも寒暖計は八四五度を昇らず 後に武相の連山を帯び前に大洋をひかへ左には江ノ島より総房の諸山右には石橋山真鶴ヶ崎を見 別に芙蓉峰の雲表に聳ゆるを望む 百忙の裡に一閑を偷まんとする都人は土曜日の午后に來りて翌日曜日の午后七時卅四分大磯発車にて帰京するも可なり 旅館の重なるものは松林館、禱龍館、海雲台、松仙閣、甲喜樓等にして海雲台は停車場後なる山腹にあり 禱龍館は海辺なる宿の程にあり 甲喜樓亦然り 松林館は停車場より左へ五六丁を行きたる長者林の間にあり 青松白沙何れにあれ世に居て世を忘るゝ別天地 〔毎日新聞〕明治25年7月17日

●大磯海水浴廣告 大磯旅亭中

大磯海水浴ハ江湖ノ御高評ニ由リ本年ハ一層ノ雑沓ヲ窮ナルニ至リ難有奉鳴謝・依テ老幼及ヒ婦人方ノ為メ浴場保護ヲ周密ニ致シ且大日本私立衛生會大磯支會ト町民一般協力シ日夜奔走専ラ予防ニ注意致シ居リ候得バ伝染病發生ノ慮リ之レ無ク候聞御安心御來浴ノ程奉待入候敬白

〔毎日新聞〕明治28年8月24日

●大隈伯の帰京

過般來大磯に避暑保養中なりし大隈伯には同夫人并に英曆氏夫妻一族の人々と共に昨午前十時三十分新橋着の汽車にて帰京せられたり 右に付親戚并に在京の改進黨代議士黨員等百余名は停車場迄出迎ひたり 〔毎日新聞〕明治28年8月28日

●昨今の大磯

大磯は東京から二時間余りと至近で、汽車賃は四十三錢。避暑に適しており、景観にも恵まれている。多忙をきわめる都会人が、疲れを癒すひとときとして、土曜日の午後に来て、翌日曜日の夜に帰京することも可能であるという。

大磯は東京から二時間余りと至近で、汽車賃は四十三錢。避暑に適しており、景観にも恵まれている。多忙をきわめる都会人が、疲れを癒すひとときとして、土曜日の午後に来て、翌日曜日の夜に帰京することも可能であるという。主な旅館として、山王町の松林館、南下町の禱龍館、停車場裏の海雲台と招仙閣、北下町の甲喜樓の名が上げられている。海雲台は停車場裏の山腹にあるとしているが、他の文献等に名が見られず詳細は不明。同じ停車場裏の招仙閣(松仙閣は誤植)との関係も不明。

大磯海水浴の評判は益々高くなりつつあったが、一方で海水浴場周辺には民家が密集しており、塵芥や水処理の不備など衛生面の不安から、伝染病の発生が懸念されていた時期もあった。

大隈重信が大磯の避暑保養を終え、帰京したことを報じている。大隈が大磯に別荘を構えたのは、明治三十年であるため、旅館等に逗留していたことが考えられる。

暑熱の酷しきに伴れ大磯に於る海水浴客は逐日増加の一方にして去る十日同地各旅店より警察署へ届でたる滞在客数は總計六百九十六名なりしと
『横浜貿易新聞』明治33年8月14日

●避暑地への電話に就て

電信線を応用して電話を開設されたる大磯、鎌倉、宮の下等の避暑地への通話は日々発話の数を増加し頗る好成绩を顕はしつゝある由なるが如何せん電話専用の電線にあらざるより電信の符号を混伝して稍聞き洩る心地はずれども通話を開始すれば自然電話の電流の爲めに電信の電流ハ排壓されて些かの障碍なく明確に通話し得るに至ると云ふ 又此の間の電話は多く避暑客の便利を計るが爲に夏季の初めに於て計画され夫れと同時に急設したるものなれば多少不完全の所もあり目下改善工事中なりと 而て箱根湯本にも電話所開設の筈にて工事中なるが今明日中には通話開始の運びに至らんと云ふ

『横浜貿易新聞』明治34年8月27日

●大磯の海水浴

県下の大磯海水浴開きは本月第二日曜(十二日)に行ふ由なるが 例年紛擾ある宿屋と掛茶屋の衝突に就き浴場創設以来の様相を記さんに掛茶屋営業者眞間長五郎外六名ハ宿屋組合へ対し初年三十円を納め掛茶屋の特権を得たるが 年を経るに連れ八十円、百円とトントン拍子に高まり来り三四年前よりは二百四十円と値上げせしが さて右納入金の分配方法と云ふを聞くに縁故浅からざる軍医総監松本順氏に若干を贈りたる上 残額は海水浴を終ると同時に宿屋組合一同は箱根湯本の福住に骨休みをなすを例となし来りて掛茶屋及浴場は殆んど宿屋の専有物として町民一般も別に怪まざる有様なりしが 一方掛茶屋は二百四十円の納入

酷暑にともない、大磯の海水浴客は増加の一途で、各旅館から警察署へ届け出た滞在客数は、八月十日現在で六百九十六名という。

大磯では小田原電気鉄道の供給により、明治三十一年に初めて電灯が点いている。次いで、大磯で初めて電話が開設されたのは明治三十四年のことであつた。記事からは、大磯、鎌倉、宮ノ下(箱根)など、政財界人の滞在する避暑地で需要が高かつたことが分かる。なお、大磯における最初の電話の設置場所は電信電話局内の二回線で、民間での一番最初は伊藤博文の本邸(滄浪閣)であつたという。伊藤はこの年の六月まで第四次伊藤内閣で首相を務めていた。

この年(明治三十六年)の海水浴開きは七月十二日(日)であつた。明治十八年に海水浴場が開設されて以来、浴客の更衣や休憩の施設として設置されてきた掛茶屋(海水茶屋)は、かねてからその運営方法に問題を抱えてきた。当初は、治療目的で海水浴を訪れた宿泊客のために旅館が設けた施設であるが、次第に営業が成り立つようになると旅館以外の営業者が現れる。規則上は、大磯の住民で規則を遵守さえずれば、誰でも

金をなすに就ては自然浴客に愛嬌を振り撒き茶代の一文も多からん事を希ひ 又は暴利を貪る為め延ては客足を止め折角得来りし大磯町の繁昌を殺がるゝ有様より 斯くては宿屋への影響も少からずと勝手の理屈を附し昨年ハ掛茶屋を改選し従来営業せし事なき七名を選定せし上 二百四十円を更に三百円に値上げせんと企てたるより 斯くと聞込みたる眞間等一派も負けず劣らず競争なし等しく敷地拝借願書を出したる騒ぎが遂に参事官出張の上実地踏査の上双方に許可する事となり新旧十四軒の掛茶屋ズラリと開業せしも 眞間一派は宿屋の専横を憤りたる余り従来二百四十円ハ愚か一文半銭をも納入せざりき、然るに本年も去る三月頃眞間等は率先して敷地拝借願書を出したるが町長宮代謙吉氏は昨年の如き宿屋と茶屋の衝突ありては唯だに物騒がしきのみならず土地の盛衰にも関する由々しき大事なればと四月中区会議員に協議し一切従来の慣例を廢し掛茶屋は大磯町にての営業と為し客の待遇方法茶代等に至る迄規定を設け大磯町の名を以て敷地拝借海水浴場設置願を為す事と決し願書を差出したるより 去月十七日参事官出張実地見分をしたる上 双方の陳情を聞き取り帰庁せしが本月一日に至り大磯町よりの出願に對し許可したると同時に眞間一派の旧掛茶屋営業者の願書ハ却下となりここに一段落を告げたるより愈々前記の時日をトし花々しく浴場開きを行ふと云ふ 『横浜貿易新聞』明治36年7月7日

●大磯海水浴開き(来十一月十二日)

同地旅亭組合協議の上浴場組織に大改良を施し来十一月、十二(雨天順延)の両日花々敷開所式を挙ぐる筈にて当日の余興には角力、烟花、游泳等ありと 尚ほ同地の旅籠料は一等六十五銭より三等四十五銭、昼食料は一等三十銭より二等二十銭

茶屋を出すことができることになつていたようだが、実権は旅館が握つていた。記事中に掛茶屋営業者七名が宿屋組合から権利を買い取つての内容からも察しがつく。そして、その支払い金額は、初年の三十円から八十円、百円と値上がりし、三、四年前からは二百四十円になったのだという。それでも、昨年(明治三十五年)は十四軒もの掛茶屋が出店していることを考えれば、それだけ海水浴への投資に魅力があつたのだらう。しかしながら、宿屋組合の特権と際限なく高騰する出店料が、大きな諍いに発展してしまふ。それを受けて町では、これまでの慣例をすべて廢止し、町が実質の許認可を出し、浴客の接待方法や茶代などの細かな規定を設けて運営することになったのである。事態は一応の収束をみたが、この問題は以後もくすぶり続けることになる。後

に、明治四十三年、大正四年、大正八年、昭和九年の各年に再び問題が再燃し、その都度改変されることになる。

新たな海水浴場の運営による開所式(海水浴場開き)の告知で、角力(相撲)、花火、游泳大会などの行事が予定されている。また、この年の旅館の宿泊料や昼食料の

なりといふ『横浜貿易新聞』明治36年7月9日

●大磯の海水浴開き

(前略) 海水浴場は愈々去十二二の両日を以て本年の開場式を挙げたり、衣類の着換所並に休憩所は例年の如く瀧龍館裏の磯の岩根に柱建て、数十間に亘れる小屋掛けをなし、当日の賑ひの一つなる素人角力の土俵は前夜中に出来上りて力自慢の磯の海土の子が其日の晴れ場所に鉄の腕競べをなしけり (中略) 尚ほここに記すべきは従来六七軒の旅店にて専有し来れる海水浴場も本年よりは斯る闊を打破りて所謂大磯町の共同浴場となり、監督者は平野幸太郎、岩田幾三郎、二宮善吉の三名を置きて浴客の便のみならず、十四人の浴客保護人を置くなど此処大改良なれば随つて浴客専門に営業し来れる瀧龍館、招仙閣、角半、山幾登、石井、かきや、油屋、中村屋、叶屋、百足屋などの旅店も大勉強にて親切に客を取扱ふべしといへば例年よりは一層の繁盛を見るべしとなん

『横浜貿易新聞』明治36年7月14日

●海水浴取締法

本県庁にては毎年夏季各処に開設する海水浴場取締方、稍々緩慢に失し之を改正を加ふるの必要を認め近日嚴重なる取締法を發布する由なるが従来各浴場を見るに孰れも男女の混浴にて中には多くの醜業・混じ客を誘ふ杯風紀上取締を要する悪風の年一年に増長する傾向があるを以て本年よりは男女浴場間に柵を設けて混浴を厳禁する方針なりと云ふ (『横浜貿易新聞』明治37年5月7日)

●海水浴場取締規則

本県於ては海水浴場に於ける風紀取締の為昨日県令を以て右規則を發布したり

『横浜貿易新聞』明治37年5月10日

●昨今の大磯

値段が記されている。

七月十二日に海水浴場の開場式を実施した。衣類着替所と休憩所(海水茶屋・掛茶屋)は、例年通り「瀧龍館」裏の磯浜に設けられた。そして、余興のひとつとして相撲が行なわれていたことが分かる。開場式に限らず、かつては村の祭礼などで必ず相撲を行なうことが多かった。当時は、相撲に対して少なからず儀礼的な認識を抱いていたようである。

なお、前述の記事にあるように本年からは町の管理による「共同浴場」となり、三名の監督者と十人の浴客保護人を置くことになった。当時の海水浴客専門として営業していた旅館の名前も確認できる。

既に神奈川県令として明治二十二年に告示された水浴場取締規則の中で「婦女の為め特に設けたる浴場」には、付添人の他は男子が入ることを禁じており、大磯においても従来から男浴場と女浴場を分けて開設していた。しかし、思うように遵守されないことから、男女浴場間に更に柵を設けて混浴厳禁とする取り決めがなされた。明治三十七年五月十日付で、県令として發布されている。

去年の秋頃からヒツソリ閑として声なかりし大磯も夏来れば年年歳々の習慣として早くも避暑客の別荘、貸間を約定に入り込むもの多く前日も一清商が瀧龍館の貸間を借らんと申込みたるも金円に換へられぬ前約あればと断はられたる程にて例年に比べて上景気はやがて来るべき模様なり 又一昨日は東京の紳商連といふ八十余名の二団体午前十一時五十分着の列車にて着したるより其旅館に充てられたる瀧龍館にてはいろいろの旗を押樹て楽隊を先登に停車場まで出迎へ出でたるが之が為め同町は一時に色めき渡り長の間欠伸に倦み疲れ果てたる紅裙隊も売れ切れの盛況を呈したりと (『貿易新報』明治38年6月17日)

●大磯海水浴の前景

一時非常の景気なりし大磯海水浴は去る三十四年頃より年年客足の減ずる傾きがあるが其原因は種々のあるべきも江の島、鎌倉、鶴沼等に海水浴場の設られたると大磯は諸物価高直との評判立ちたると海水浴場及び其附近は下町の塵芥捨場と成り居りて夏期に至れば浴場の鼻先のみ掃除を為し其他は不潔極り居れば自然客足薄らぎたるものならんといふ 是を以て去る三十六年中宿屋組合規約を改正し宿料を低廉にし客扱を丁重にし浴場更衣所に於ても茶代を受けざる事と為し 又同年吉澤警察署長赴任せられてより衛生上に付保養地たるの設備なきは遺憾なりとて清潔法の励行を始めたるより 昨三十八年は戦争未だ終局を告げざるも之等の諸設備に注意したる為め比較的浴客増加したるが 本年は又々署長自から其任に当り調査部長巡查を督促し宮代町長に交渉して海岸に捨つる塵芥は運搬人を定めて之れに請負はしめ海岸には塵一つなきまでになさんと之れが実行を見るに至れり 又海水旅館長生館 角半楼 元宮代分

大磯では冬場の避寒地としても知られていたが、それでも夏場の賑わいに比べれば町は静かであったようだ。しかし、夏が近づくとつれ、別荘や貸間の確保は次第に困難になる。大磯の旅館や茶屋、貸間を提供する家では、その多くが「お馴染み」などと呼ぶ顧客の利用が大半を占めており、当時の海水浴の性質が窺われる。記事では団体客が大磯駅に到着すると、歓迎の旗や楽隊の出迎えがあるなど賑やかな様子が記されている。

明治三十四年頃から、大磯海水浴場の客足が年々減少しているという。その原因は、江の島、鎌倉、鶴沼など各地に海水浴場ができたことで、浴客の分散化が進んだこと、大磯は物価が高いという評判が立っていること、海水浴場周辺不衛生なことだとしている。そこで、宿屋組合においても対応を強化し、明治三十六年から規約を改正して宿泊料金を下げ、客への応対も丁重にする共に、更衣所では茶代を受け取ることをないようにするなどを申し合わせた。

なお、海水浴場周辺の衛生管理は、従来からの課題であり、ゴミの収集についての対応を図っている。また、旅館においても海水浴客の利便を考慮した改装が進んで

店事大内館は何れも改築し浴場旅館として完全の設備出来たりと云ふ

〔貿易新報〕明治39年6月9日

●大磯の海水浴

(前略)本年四月一日より汚物掃除法施行せられ吉田巡視は日日衛生組長及び掃除夫を督し汚物掃除法を励行し警察署員は清潔法を厳に行ひ居れば町の体裁前年に打て変りたりとは町民も客の待遇に付て一層注意せんと互に戒め合ひ居れりと云ふ

〔横浜貿易新報〕明治40年7月27日

●中学校生徒の海水浴

県下小田原町にある第三中学校生徒二百余名は本年の夏期休暇には大磯町に滞在海水浴を為さんとて此頃校長阿部傳氏大磯に出張し其期間小学校内を借受け且つ浴場休憩所を設くる事に付き中川町長吉松署長朝倉校長等に交渉せしに何れも快諾一層便宜を與へんとて目下準備中なり

〔横浜貿易新報〕明治42年7月11日

●海水浴記念祭余興

中郡大磯町海水浴場記念祭は去四日挙行したるも其余興は去十五、十六日の両日に日延しありたるを以て十五日夜は町内各戸国旗球燈を出し浴場に於て数十発の烟火を打揚げ午後より照ヶ崎にて平塚町若者連の新演劇を催し非常なる賑ひにてありたるが又十六日は終日浪乗泳遊の競争ありしと

〔横浜貿易新報〕明治42年7月18日

●経営の逆戻協議 大磯海水浴場

湘南大磯町の海水浴場は去廿四年中に故松本男が来遊ありしを機とし土地の宮代謙吉 宮代新太郎 中川良智の諸氏は男爵の後援に抛り浴場を開設したる 以来旅館組合にて経営し浴場内に更衣所掛茶屋を設らへ保護者を置きて客を待遇し居りたるに去三十五年の中更衣所にある保護者等は無法

いることが分かる。

日本最初の廃棄法である汚物掃除法が施行され、塵芥や尿尿等の汚物を町が処分することになった、従来から懸念されていた浴場周辺の衛生管理にとつて大きな転機となる事象である。なお、法の施行は一般的には明治三十三年とされ、ており記事の表現と一致しない。

夏季休暇にあたり、いわゆる臨海学校を大磯で実施する学校が次第に増加する。この年、小田原町の第三中学校が来磯するにあたり大磯小学校を借り受けての滞在大磯海水浴場に専用の休憩所を設置することが認められている。

祈年祭を七月四日に開催した。しかし、何らかの理由により余興が延期された。後日、町内各戸に「国旗球燈」を掲げ、平塚町の若者らによる演劇や波乗競争が催された。ここで言う烟火とは、「音物」という合図用の昼火花のこと。

海水茶屋をめぐる、再び問題が組上り上がっている。海水浴場開設当初は旅館組合により茶屋を経営していたが、明治三十五年に保護者等と旅館組合との間で紛擾が発生する。保護者というのは、浴

な茶代を客に請求するより保護者等と旅館組合との間に衝突起り紛擾に紛擾を重ね警部長泉属等の出張調停を試みたる事もありしが、其結果該経営を旅館組合より町に引渡したるが以来は海水浴開きも旅館組合当時と異り至極質素に挙行してさへ収支価はざるより今回元の旅館組合の経営に委せんと議起り去十四日夜町海水浴委員は役場内に会合し引渡條件等に付き協議を凝したり

〔横浜貿易新報〕明治43年6月16日

●海水浴開始日

湘南大磯町の海水浴開きは七月三日に挙行し紀念祭は十六、十七日の両日執行 同日は余興として煙火 燈籠流し 平塚素人角力 遊泳競争 地引綱 手踊等の催しある由にて本年は旅館経営となりし第一年なれば費用を惜まず最も盛んに挙行す

〔横浜貿易新報〕明治43年6月28日

●大磯駅の雑沓

打続きの雨天なりしが天候回復したりと雖もメツ切り冷気を催し海水浴を為す日とはなく徒然に苦み居る滞在客に加へて東京市の惨状は頻々として報せらるれば汽車の開通次第帰京せんと待ち構へ居りたる大磯の避暑客は去十六日開通と聞くや吾先きに乗車せんと早朝より大磯駅に詰掛け同日は夕刻に至るまで非常の雑沓を極め車室満員にて取残さるゝ者も多かりし

〔横浜貿易新報〕明治43年8月18日

●大磯の海水浴場開き

中郡大磯町の海水浴開きは去九日の日曜日をして海水浴場委員 町長 町会議員等浴場に集り例年の通り故松本順男の木像を安置し開始式を挙行したるが同日は東京よりの浴客も余程見へたり尚ほ余興は来廿三三の両日行ふ筈にて里神楽 素人角力 燈籠流し 手踊り等なりと

客の安全確保と遊泳指導を目的に茶屋が雇用した「じいや」のことと思われるが、この記事では「じいや」が法外な茶代を請求したことも理由のひとつだったという。そのため、管理を町に移行して質素な運営を行なってきたものの収支は思わしくなく、元の旅館組合の経営を望む声が再燃した。

七月三日の海水浴開きの後、十六、十七日に祈念祭が催されており、同日の高来神社夏季大祭(御船祭)と併せて最も賑わいを見せる時期である。海水茶屋が再び旅館組合の経営に移行している。

この年の夏は大雨の被害が相次いだ。八月九日〜十一日にかけての大雨で、相模川(馬入川)や花水川の堤防が決壊し、東海道線も不通となった。十三日より再び雨が激しくなり、被害は更に広がった。東海道線が復旧したのは十六日で、海水浴客は先を争って帰京したという。

海水浴開きを七月九日の日曜日に挙行。海水浴場委員、町長、町議会議員らが集まり、松本順男の木像を安置して開始式を行っている。木像というのは、松本の生人形のこと、現在大磯町郷土資料館に

『横浜貿易新報』明治44年7月11日

●大磯海水浴場の閉鎖

中郡大磯町の海水浴は避暑客昨今皆無の為来る十日閉鎖 『横浜貿易新報』明治44年9月7日

●大磯旅館客数比較 本年は増加の見込みなり

中郡大磯町海水浴旅館禰龍館、招仙閣、長生館、大内館、角半楼、山本楼、宮代屋、鍵屋、油屋、叶屋、中村屋の十一戸に対する去三十七年より客の宿泊数を掲ぐれば左記の通りなり

三十七年度	三五、五三五人
三十八年度	四一、二九五五
三十九年度	四三、九五五人
四十年年度	四五、一六〇人
四十一年度	四二、七六九人
四十二年度	三七、三九一人
四十三年度	三七、九六五人
四十四年度	三八、二四六人
四十五年度六月卅日迄	三、〇四〇人

以上の如くにして四十年年度の四万五千六十人は最高点を示したるが四十二年まで減少し四十三年より追々と増加し来り例年六月卅日までは一千六百七十に過ぎざる所本年は三千四十人の宿泊数の好成绩を現したれば本年は天候に大なる変動なければ四十年度に下らざる客を得る見込みなりと云ふ

『横浜貿易新報』明治45年7月14日

●避暑客は例年の八分

先帝崩御大喪中なれば避暑客の減少は当然の事と予期し居たるが去五日までは大磯町に入込たる客数は旅館三百七十五人貸別荘貸間千〇〇七人なりしもの 十日の調査に依れば五日間内に激増して旅館四百四十人其他に千六百余人にして二千余名となり毎日の海水入浴者は千七八百人位にてここ五六日間を過ぎれば三千の客は入込むなるべ

保管・展示されている。かつては「神体的な扱われ方をしていた。

かつては、避暑客の状況を見て海水浴場の閉場を取り決めており、毎年決まった日ではなかった。

大磯町内の十一の旅館を対象とした宿泊客の統計である。それによると、四万五千人余りの客数で記録した明治四十年度が最高だったが、その後は減少傾向にあることが分かる。しかし、本年度（明治四十五年度）は、六月末までの宿泊客数が例年を大幅に上回っており、このまま天候に大きな不順が無ければ、四十年度に迫る客数を期待できるとしている。しかし四十年度をピークとした宿泊客の減少は、海水浴客の減少を意味するものではない。別荘所有者の増加、あるいは交通網の発達と浴客の質的变化により、日帰り客の増加や貸間利用者が増加し、相対的に旅館宿泊客が減少したのではないかと考えられる。

明治四十五年七月三十日、明治天皇が亡くなられた。葬儀（大喪の礼）は十三日となり、服喪の期間であるため避暑客の減少を予想していたが、次第に客数が増加し、例年と変わらない状況になりつつ

く例年の四千近きに比し八分位の客数に達する見込みなりと云ふ

『横浜貿易新報』大正元年8月11日

●海水浴場は寂寥

未だ諒闇中なると前四五日間天候険悪なりし為めか大磯町の海水浴場は実に寂寥とし居れば更衣所浜茶屋も毎日客待顔の体なるが貸家貸間の大半は約束済になり居れりと云ふ 旅館側にては客はお馴染みにて充分なれば他の客は小面倒臭い一人もなきが増しと大に贅沢の熱を吹き居る例の如し

『横浜貿易新報』大正2年7月26日

●避暑客の激増 二千余人の大盛況

諒闇明となり東京の川開きも済み突飛なる冷気も去三日正午頃より恢復したる故にや 是まで寂寥たりし大磯の避暑客は激増し確かに二千余となりたるが其内の重なるは伊藤文吉男、渡邊千春、赤星鐵馬、島津伯、高田慎三、高木兼寛、浅野總一郎の諸氏なり 又海水浴場の入場者は二百五十二人三日は高浪にも拘らず七百余の盛況なりし

『横浜貿易新報』大正2年8月6日

●海水浴場町営 旅館組合持案す

中郡大磯町の海水浴場は最初旅館組合の経営なりし処 明治三十三年町経営となり同時に更衣所出方も交替させんとし一大紛擾を起し七軒の更衣所が十五軒にもなりたりしが 其後元の旅館組合経営に戻り十年間継続し来りたるが 近年高浪の災害打続き毎年更衣所を凌はれ其損害多大にして旅館組合も大に持て余したれば 本年より又々町経営と為すこととなりたるが何時も町経営と為す時は無責任の遣り放しにて浴室の不平満々なるが今後の経営振り如何にや

『横浜貿易新報』大正4年6月20日

●日曜の大磯海水 盛夏も及ばぬ警告

あることが記されている。服喪期間といえども、例年と変わらない入出が予想されている。

いよいよ盛夏ではあるが、未だ諒闇中であることに加え、天候不順により海水浴場は閑散としているという。それでも旅館側は馴染み客の利用があれば十分であると強気であり、その経営姿勢の一端が窺われる。諒闇というのは儒教の考えに基づいた服喪期間のこと。

明治天皇の崩御日である七月三十日を過ぎて諒闇明けとなったことが分かる。諒闇明けによって避暑客も増加し、伊藤文吉（伊藤博文子息）や軍医総監を務めた高木兼寛、実業家の浅野総一郎などが来磯したことを伝えている。

大磯海水浴場と海水茶屋経営の経緯が記されている。当初の旅館組合の経営から、明治三十三年に町経営に変わり、同四十三年に再び旅館組合の経営に戻った。しかし、近年災害が続いて旅館組合による経営に支障を来たしているため、本年から再び町経営とすることを伝えている。一方で、町の経営方法への批判も根強かったことも窺える。

去十六日は孟蘭盆と藪入と兼たる日曜日なりしが以て大磯海水浴場は土曜日より入込みたる浴客京浜各商店 藪入小僧連 外国人も加はり一時に押懸け来り盛夏も劣らぬ賑ひにて非常の雑踏を極め海岸及市中の飲食店料理店も相応に繁昌したるが 横浜市商店の小僧連の一隊が海岸の某掛茶屋に陣取り女将に対し今日一日遊ぶと申込みビールサイダー、氷水、鰻丼と注文し互に英語を以て談話し大に英語通を振り廻し嘔吐を催す程の生意気に女中も煙に巻かれ居りたるが 其間浴場取締の警官は彼所此所と巡回茶屋の前を何回となく往き来ふに英語を以て之を批評し或いは悪口を云ひ居りたるも巡査は堪忍知らぬ顔して居れば 小僧連益々凶に乗り田舎巡査丈に英語を知らぬと罵りたるに巡査は立戻り来り生意氣小僧に対し懇々説諭し将来を戒めたるに流石の横浜小僧も大に恐れ入り初め大威張何処へやら女将にも女中にも面目なげに悄然として立ち去りたるは笑止やら御愛嬌やらであつたと云ふ

〔横濱貿易新報〕大正5年7月18日

●招仙閣の廃業 伊藤公没後の凋落

中郡大磯町停車場上の大旅館招仙閣は明治廿年頃峰岸棟太郎氏の創業したるものにて故伊藤公在世中は幾多の政治家、軍人、官吏の定宿として大に全盛を極めたりしが伊藤公没後頓に寂寞となり家屋全部は加藤正義氏に売却し之を賃借し辛ふじて営業を持続し居りたるが何か家内に事情ありてか去一日限り廃業の旨大磯警察署に届出たるが大磯関門の大看板を失ひたり

〔横濱貿易新報〕大正5年10月6日

●海水浴場設備 人工設備を加ふ

中郡大磯町の海水浴場は是までは少しも人工を加へず天然の儘なりしが近年に至り浴客の非難多

七月十六日は、孟蘭盆と藪入りが重なり、海水浴場はたいへんな賑わいであつたという。藪入りとは、商家などに奉公している子弟が実家に帰る休日のこと。この日、藪入りを利用して海水浴場へ来た若者たちが、海水茶屋に陣取り、我が物顔に振舞っていた。特に、英語を交えて話しながら、巡回中の巡査に対してもかなりの悪態をついたため、堪忍袋の緒が切れた巡査により、懇々と説教を受けたという。かつて、海水浴は経済的余力のある人たちによる転地療養における治療の一環であつた。海水茶屋も、いわばそのような人々の社交場の様相を呈していた。つまり、記事中の横暴な若者の出現は、海水浴客の質的变化を如実に物語っている証左といえよう。

旅館「招仙閣」の廃業を伝える記事である。招仙閣は大磯停車場裏にあつた老舗の大旅館である。かつて、伊藤博文が別邸（後に本邸）滄浪閣を建築する際に、同旅館で指揮を執るなど、多くの著名人が利用した。大磯を代表する旅館を失うことになり、大きな痛手となるのが心配されている。

大磯海水浴場の改善工事の記事で、堤防を貫いて浴場に下りる階

きより本年は人工設備の第一着手として浴場入口の階段をコンクリートにて蓄設する事とし土地の請負業小巻角次郎の請負にて工事に着手したり杉原物次郎氏の奔走にて昨年海道路路は新設され追々と改良さるゝを以て来遊客に満足を與ふるに至るべし

〔横濱貿易新報〕大正6年6月5日

●海水浴場改善 大に客の待遇に努む

中郡大磯町にては本年より海水浴場の設備に大改善を加へんと予てより計画中の処 今回其第一着手として是まで旅館組合経営にて南浜浴場砂地に八棟、北浜浴場に二棟、堤防上に一棟の更衣場兼帯の休憩所を設け 又堤防上に二棟の個人経営の飲食店の設備ありし処 此南浜浴場に属する更衣場は総て浴場に接近の砂地に移し 堤防上二棟の飲食店を廃し此処に旅館組合経営の間口三間奥行二間の長方形の一棟を建設し之を四つに区画し入札を以て賃貸し専ら其日帰りの浴客及学生等の便宜を図り 販売の飲食物に制限し二十銭の弁当を販売し来遊客より暴利を貪る等の事なき様厳重なり取締を為し僅々四五十銭にて一日の清遊を試みらるゝ計画にて目下其準備に執筆しつゝあり

〔横濱貿易新報〕大正6年6月30日

●浴場卅年記念 松本男の碑も建つ

中郡大磯町の海水浴場は明治二十年中に故松本男爵の主唱にて開始せられたるものにて本年を以て三十ヶ年に相当するに依り来る廿八、廿九の両日照ヶ崎の浴場前に於いて三十年記念祭を執行し余興には東京丸一大神楽煙火素人相撲等を催す由因に今回海道路路中央に故松本男爵の碑をも建設したり

〔横濱貿易新報〕大正6年7月13日

●大磯海水浴場 町営となる

中郡大磯町の海水浴場は明治十九年に開始されたる以来旅館組合が経営の任に当り浴場開始式其

段を新設した。なお、杉原物次郎は、南本町で開業していた医師で、千畳敷（現湘南平）の観光開発や海道路路の開設に尽力した。海道路路というのは、南本町の国道から照ヶ崎の海水浴場へ通じる道路で、浴客の利便は格段に高まつた。

前述の記事に引き続き、海水浴場の改善についての記事である。改善内容は、旅館組合の経営する海水茶屋を整備する内容で、南浜浴場に八棟、北浜浴場に二棟、堤防上に一棟の茶屋を設ける他、堤防上にある二棟の飲食店を廃し、代わりに新たに一棟を新築して入札により四区画を賃貸することで日帰りの浴客や学生たちの便宜を図るといふ。また、二十銭で弁当を販売するなど、四、五十銭あれば一日過ごすことができるようにすることを計画している。

大磯海水浴場の三十年記念祭開催の告知である。記事では浴場開設が明治二十年であり、三十年を記念して「松本先生謝恩碑」が建てられたとある。しかし、実際の浴場開設は明治十八年で、謝恩碑の建造も昭和四年のことである。記事内容と大きく乖離している。

再び海水浴場の経営についての

余興等に至るまで花々しく挙行し七軒の茶屋出方を指揮し其経営振り遺憾なかりしが、同三十四年に至り出方連中は浴客より暴利を貪り旅館組合に對しても横暴の振舞ありたるやにて従来の出方七軒を廢し更に七軒茶屋を建て之れに交替させんとしたるが動機となり旅館組合と旧出方との大衝突起りたるが、翌三十五年に至り旧出方七軒に新設の出方三軒加はり掛茶屋を營業する事となり其経営も町に移したるが役人主義の遣り口にては浴客との間に円満を欠き終に経営不可能となり一千数百円の借金を残し大正四年度より其経営は専ら旅館組合に委託し今日に及びたるものなるが、毎年の如く更衣所休憩所は高浪の爲め破損し浴場事務員保護者等の諸給も年々増加し此等の費用と借金の利拂等多大の費用を要するも、大磯町としては僅かの補助を為すのみにして大部分は旅館組合の負担なるに、之れに反し海水浴客に付ての利益は旅館の独占にもあらざれば浴場は町営にて当然なりとの理由の下に本年度より全く同町にて経営する事となりたり

〔横浜貿易新報〕大正8年7月4日
●大磯禱龍館の披露會

中郡大磯町海水旅館禱龍館は故中川外次郎氏が明治十九年創立し一時は湘南の大旅館として盛大なりしが、外次郎氏死去後女將トク子は三男四郎の名義にて營業し今日まで持続し來りたるも家事の都合にて今回東京芝区神谷町三吉和田秀雄氏に譲り渡したれば、氏は来る十二日午後五時より町内有志を招待し開業披露會を催す由

〔横浜貿易新報〕大正9年6月10日
●教員の水泳講習

来る八月一日より大磯小学校内に開會さるゝ動的教育教授法講習會を好機として本県師範校教諭

記事である。繰り返しになるが経過を記すと、明治十九年から旅館組合の経営として七軒の茶屋を設置していた。しかし、実際に茶屋運営に携わっていた出方と呼ばれた人々と浴客や旅館組合との間で利害関係がもつれ、明治三十五年、それまでの七軒の茶屋に加え、新たに三軒の茶屋を新設し町経営とした。ところが「役人主義」の経営方法が破綻し、大正四年には再び旅館組合の経営に戻つたといふ。しかし、浴場従事者の人件費が年々増え、更に毎年のように高浪の被害を受けることから多大の借金を抱えるに至っている。町からの補助も僅かで、浴客のもらす利益も思うように旅館側へ渡らないため、本年（大正八年）より再び町経営にするのだといふ。浴場開設以來三十四年を経た今も揺れ続けている状況が読み取れる。

診療所を併設する海水旅館として、いわば当時の海水浴を象徴する存在であつた禱龍館の消息を知ることのできる記事である。この頃と同館は経営者が変わるも、未だ營業を続けていたことが分かる。しかし、その後の関東大震災で被害を受け、経営に大きく影響する。

河津彦四郎氏を聘し一日より六日間大磯町海水浴場に於て水泳講習を為す由なり
〔横浜貿易新報〕大正9年7月15日

●県下六海水浴場の衛生価を試験 海水、空気、井水、牛乳の化学的並に細菌的試験

県下の避暑地として知られて居る大磯、片瀬、鎌倉、逗子、葉山、三崎の六海水浴場に付其の衛生価を試験する為め本年の七月から八月に亘り内務省衛生試験所技師四方敬一、植木良佐、同技師小毛利利三、齋藤良蔵、小林英一、猿橋繁、同嘱託高橋春雄、本県衛生技師多田亮の八氏が協力して前記各海水浴場の海水、空気、飲料水（井水）販売牛乳の化学的並びに細菌的試験を行つた結果大体次の如き成績を示すに至つた（中略）大磯海水は良いが町家が浴場に接近して居る為め雨後の如きは甚だしく海水が汚染する、空気は比較的良くない、井水は概して不良、牛乳は頗る良い（中略）試験の結果の概評は右の如くであるが更に海水に就いての試験に依つて見ると

地名	外観	浮遊物	塩分含有量
大磯	微濁	稍少量	三三九二
片瀬	微濁	少量	三〇八八
鎌倉	微濁	稍少量	三〇〇三
逗子	澄明	微量	三四四八
葉山	澄明	微量	三四六三
三崎	澄明	微量	三四三三

空氣中に含有する二五立中の菌數は大磯一〇〇〇片瀬二二〇〇 鎌倉九二〇 逗子六八〇 葉山六倉逗子の順で三崎が最も良い

●改善される避暑設備 案内札頒布、渡船場開設

（前略）本年よりは停車場前に案内所を設け事務員詰切案内札を同駅に下車の浴客に洩れなく渡

事である。このような事業も、いわば海水浴の大衆化に伴う変容の事例のひとつといえる。

大磯、片瀬、鎌倉、逗子、葉山、三崎の六箇所の海水浴場において衛生技師による衛生検査をする旨を伝えていた。検査内容は、海水浴場の海水、空気、飲料水（井水）と、販売されている牛乳の品質検査であつた。その結果、大磯では、海水の水質が良いが、海水浴場に町家が近接しているため、降雨後は汚水が流れ出し、海水を汚染すると分析している。現在でも実施されている海水浴場の水質検査は、既にこの頃から始まつていたことが分かる。

また、その他の検査項目中、空気や井水はあまり良くないが、牛乳の品質は絶賛されている。大磯における牛乳は、明治中期以降に著名な政財界人などの別荘が林立する中で、先進的な嗜好や奢侈な生活が大きく関わっていたことが考えられる。旧大磯町で最初に乳牛を飼育したのは明治十八年と比較的早かつたが、当時は自家での搾乳技術はなく、各地の牧場への貸牛を目的とした飼育であつた。自家で搾乳するようになったのは大正中期以降である。

し其案内札には貸家貸間宿屋の宿料 昼食料 入浴料金 名勝旧蹟等図面を添へ記入したもの二十余万枚印刷する筈である 又浴場上には長生館の経営する間口十二間奥行三間半の簡易食堂を建設するので目下工事中である 大磯平塚間の花水川下流には七八九の三ヶ月間渡船場を設け平塚海岸より来たる浴客の便に供するのである 尚海水浴場の更衣所休憩所は既に出来上り来る七日の土曜日に海水浴場開始式を挙げる筈

『横浜貿易新報』大正12年7月1日

●照ヶ崎隆起海岸を爆破開墾して海水浴場漁船の出入を便にする計画

大磯町照ヶ崎の海水浴場は既報震災のために磯が隆起したので浴場としても漁船の登着にも資格がなくなつたので大磯水産会では工費五万円に對し約五割の補助を農商務省に申請中であるが許可になればカブト岩附近に長さ八十間の防波堤を作りダイナマイトにて干潮面から三尺乃至七尺の深さに左記の諸岩を爆破し ボタモチ岩、コサバリ岩、大明神、小根磯、横根磯、長磯 浴場としても船の着陸場としても適当なものにするとの事であるが竣工期はまだ計画だけであるから前途全く遼遠で今夏の海水浴には全く間に合ぬとの事である 『横浜貿易新報』大正13年2月26日

●地震で良くなった大磯の海水浴場

休憩所との間が遠いので不取敢心急の工事と

中郡大磯町の海水浴場は震災の為に隆起したので天然の良浴場となつたが休憩所と浴場まで距離があるので其通路と漁舟の舟揚場を設置の必要ありて其工事費十萬円以上の見込なれば大磯町及大磯漁業組合で四万余円寄附し県事業として工事を為す筈であるけれども未だ具体的設計成らず 来七月第一日曜日海水浴場開きまでには到底間に合

大磯停車場前に案内所を設置し案内書を配布するなどサービス向上に努めている。また、長生館が簡易食堂の建設を進めているとある。長生館は、前身であった松林館が大磯の大火によって焼失後に移転・再建された旅館であった。なお、花水川河口に橋がかかるのは、昭和六年に着工された湘南遊歩道路が、大磯に延伸する昭和九年まで待たねばならない。

大磯海水浴場は、大正十二年九月一日の関東大震災によつて、二メートル余り隆起した。そのため、海水浴場としても、あるいは漁港としても不具合を生じていた。もともと海水浴場と漁港を共用していたこともあり、遊泳と漁船の揚げ下ろし双方の機能を保たなければならぬという板ばさみに遭いながら復旧工事を進めることになる。大震災を契機に、海水浴場の景観が大きく変わっていくことになる。

前記事とは相反して、地震による隆起は海水浴にとつて影響は少なく、むしろ遊泳しやすくなつたと記している。しかし、隆起によつて浜が広がり、漁船の船揚場を設置する必要に迫られる。やがて、この復旧計画は、大正十四年三月

はざれば大磯町の杉原医師は町の寄附を得て応急工事を施すやう藤田町長に迫り承諾を得目下浴場までの通路の設計上であるが 杉原氏は去大正五年に海水浴場道路を開き大磯遊園地千畳敷の道路を改修した町の功労者であるが今又此企画あるは奇篤と云ふの外なし

『横浜貿易新報』大正13年6月15日

●海水浴場開始式 淋しい人気

大磯町海水浴場開始式は七月三日挙行 海水委員は委員会を置き浴場設備に付出力茶屋に命じ準備怠りなく 町民は店頭の裝飾家屋の手入其他に付大忙を極めて居るも貸家別荘の借人は更に見へざれば本年の海水客は大震災以来の寂しさである様想像さるゝ 震災以来避暑客年々減少するは土地隆起の為に井水枯渇し飲料水、洗濯水等に不自由であるのが原因の重なるものであらう

『横浜貿易新報』大正15年6月21日

●押すな押すなと海水浴の大賑ひ

大磯の水がながいので その日帰り客多し 大磯の海水浴は悲観されて居た処この暑さに京浜から続々として入込来り毎日大磯駅の昇降客は二千五六百人で日曜、祭日は三千人を突破するので盛況で海水浴場も満員であるが余り照り続く為め南北北町 南北本町 茶屋町 台町等は井水枯渇し飲料水にも差支へるので海水浴客も滞在する能わず其日帰りの客が多いので随つて停車場が雑踏するのである (後略)

『横浜貿易新報』大正15年8月3日

●湘南海水浴場で避暑客誘致計画

共同戦線を張つて努力

(前略) 平塚、大磯、茅ヶ崎、藤沢、片瀬の一流海水浴場を控えた湘南期成同盟会では房総沿岸を向かふにまはして避暑、海水浴客の招致に共同

から大正十五年九月までの一年半にわたる総工費十一万円をかけた大工事の実施につながる。工事内容は、浚渫、岩盤切取、護岸、防砂堤、防波堤、水路掘削などが行なわれた。

関東大震災以後、避暑客は年々減少して来た。この年も、海水浴場開始式は七月三日を予定しているが、貸家や別荘を借り受ける浴客の予約が少なく、関東大震災以来の寂しさであるという。その主な理由は、地震によつて土地が隆起し、井戸水が枯渇し、飲料水や洗濯水などに不自由をきたしているためではないかと分析している。

心配された人も、連日の暑さに海水浴場は満員であるという。しかし、雨が降らず井戸水は渇れ飲料水にも事欠く状況のために日帰り客が多いのだという。かつて、浴場周辺の井戸は日照りが続くと容易に涸れてしまったと伝える人が多い。しかし、唯一、裡道にある大井戸だけは水が涸れなかった。天保井戸、シイド、ガンガンの井戸などと呼ばれ親しまれた大井戸は、多くの人々の窮地を救った。災害時用の井戸として現存する。この頃になると、各地に海水浴

戦線を張らうと云ふ申し合せが出来て海水浴の共同宣伝や無料更衣所の共・切符などを発行して湘南の海を広く天下に紹介しよう云ふ大計画である。(後略) 『横浜貿易新報』昭和6年5月14日

●貴族的海水浴場を民衆的に開放

大磯町漸やく目ざめて設備を充実

平塚町は従来通りの一本調子で

(前略) 海の施設については大体に於て前年度の踏襲であるが時代の流れに依じて無料更衣所を二ヶ所に設置し監視人一名づつを置いて従来附・されてゐたものを大衆向きの浴場にしよう云ふのである。貸ボートは一時間五十銭であつたのを更に引下げる交渉中である。海水浴場は従来位置を拡張して鴨立沢下から大島根まで約八十間延長する事になつた。此の外避暑客の貸別荘、貸間の案内所は十六日から大磯駅前に開設し町営海水浴場食堂も値下げの調整中である。又大磯と相前後して平塚町では青年団主催町後援の下に民衆的浴場をモットーとして華々しく開場の筈で施設等については西二日以内に決定を見る事になつた。吾妻村二宮、梅津の海水浴場は七月下旬に海水開きを行ふ事になつてゐる

『横浜貿易新報』昭和6年6月10日

●海水浴場茶屋 青年団で経営

大磯町海水浴場茶屋問題について十五日町会協議会を開き町が直営により青年団に委託して町営海水浴場更衣所と銘打つて開設することになり在郷軍人、青年団員が監督となり黒坊主六名、女中六名を置き料金は大人一回十銭、子供五銭で避暑客の需めに応ずる事となつた

『横浜貿易新報』昭和9年6月17日

が林立するようになる。そこで、湘南地域の海水浴場では、既に結成していた湘南期成同盟会によりキャンペーンを企画し、房総方面に対抗する。大磯町郷土資料館には、茅ヶ崎・平塚・大磯共同の誘致ポスターが残されている。

海水浴場客の質的变化にともない、「大衆向き」の海水浴場に転換させようという試みが続いている。無料更衣所と監視人の充実、貸ボートの値下げ、海水浴場の拡張、大磯駅前に貸別荘や貸間の案内所設置、町営海水浴場食堂の値下げなどを画策している。一方、平塚町(現平塚市)の浴場では、従来どおり青年団の主催、町の後援により、華やかな開場式が企画されている。なお、吾妻村二宮(現二宮町)の梅津海水浴場というのは梅沢の誤記ではないかと思われる

相変わらず茶屋については多くの問題が存在していたようである。この年、町が直営として更衣所を開設することになった。実際の運営は青年団に委託し料金が設定されている。記事中の黒坊主とは浴客の安全確保や遊泳指導を行なう「じいや」のこと。なお、茶屋の問題は今後も続くことになる。

年 報

平成 21 年度

◇ 平成 23 年 3 月 30 日発行

◇ 編集・発行

大磯町郷土資料館

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1

TEL 0463(61)4700 FAX 0463(61)4660